

北九州市立自然史・歴史博物館
(北九州市立いのちのたび博物館)
年報

平成 29 年度



ごあいさつ

北九州市立自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館）は平成 14（2002）年 11 月 3 日に北九州市立歴史博物館、北九州市立自然史博物館、北九州市立考古博物館が一つの施設となって開館して以来、平成 29 年度に開館 15 周年の節目の年を迎えました。平成 29 年度は 532, 110 人のお客様をお迎えし、開館以降の総入館者数 600 万人を達成することができました。これまでの当館の活動に多くの方々のご理解とご協力をいただけたからこそ達成できたものと思います。厚く御礼申し上げます。

次の節目となる開館 20 周年に向けて、博物館の使命である標本資料の収集・整理保管・調査研究・展示・教育普及活動はもとより、より多くの皆様が楽しく学んでいただける博物館となるよう、職員一同これまで以上に研鑽を積み、職務に取り組んでいきたいと思いをします。

ここに平成 29 年度の年報を刊行いたします。多くの方々に当館の様々な活動を知っていただき、これまで以上に地域に根ざしながら、情報を世界に発信できる博物館となるよう、積極的なご意見とさらなるご協力を賜りますようお願いいたします。

平成 30 年 8 月

北九州市立自然史・歴史博物館
館長 上田 恭一郎

北九州市立いのちのたび博物館「理念と方向性」

<理 念>

自然と人間の関わりを考える共生博物館

- 1 博物館の展示に於いて示していく
- 2 教育・普及事業に於いて啓発を行う
- 3 資料収集、保存及び研究を進めていく

<方向性>

知的アクセス権を保障する博物館——知的好奇心への対応

- 1 ミュージアム・ネット化構想を進める
- 2 常に開館している博物館「24時間ミュージアム」を推進する
- 3 知的な疑問や関心に責任を持って応える

セカンドスクールとしての博物館——将来への知的投資

- 1 学校等に対して誘致事業を推進する
- 2 学校教育の支援事業を強化、拡大する
- 3 家庭教育の支援事業を充実する

研究の成果を教育・普及に生かす博物館——社会への知的還元

- 1 知識と経験を生かし、質の高い展示と教育・普及事業を行う
- 2 知の集積施設として外部の委員・講師や他組織の指導・助言を行う
- 3 地域の特性を活かした研究を行い、広く情報を発信する

目次

ごあいさつ

北九州市立いのちのたび博物館「理念と方向性」

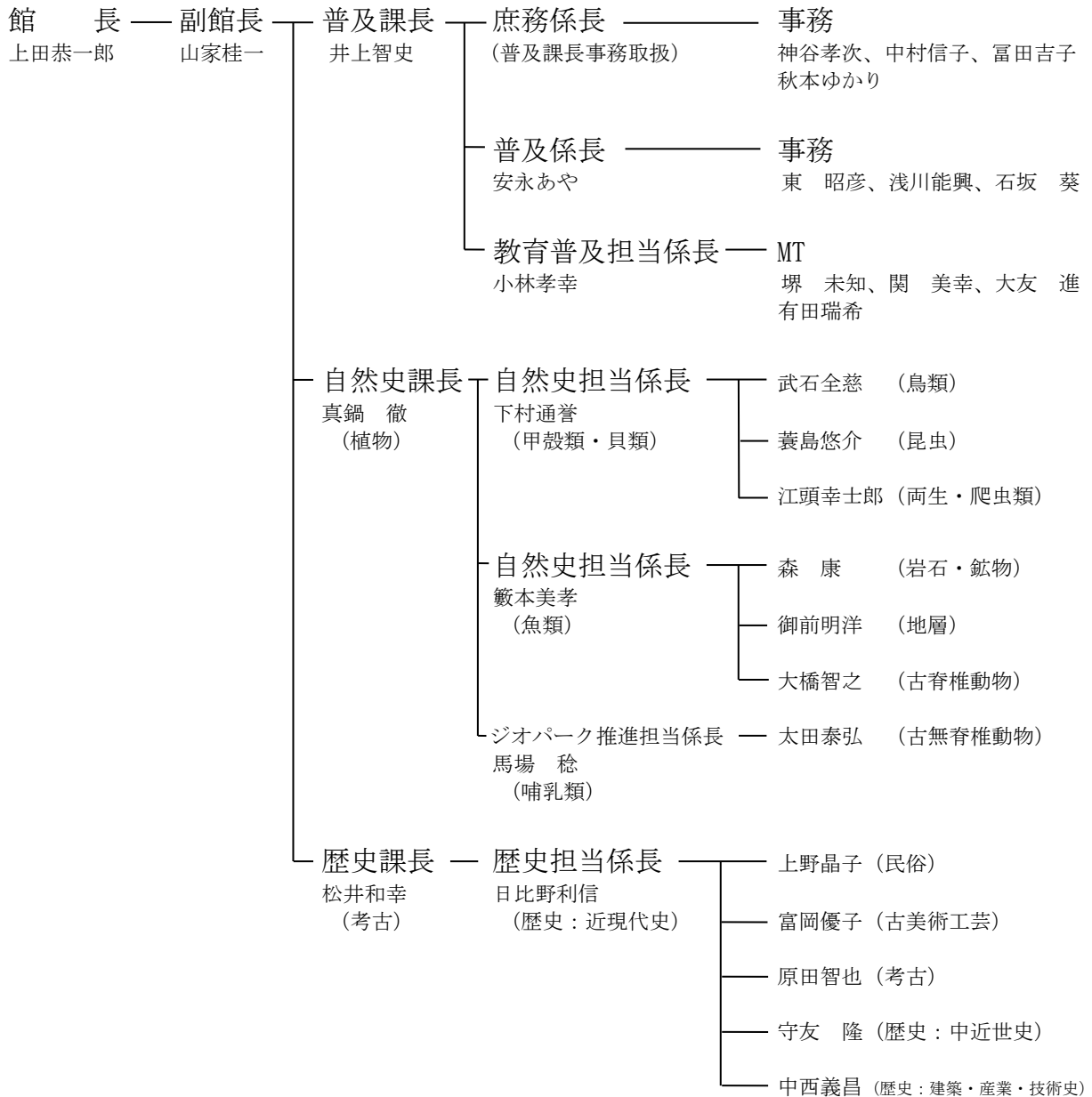
目次

	頁
1. 組織・運営体制.....	1
2. 博物館協議会.....	2
3. 平成 29 年度予算.....	3
4. 施設概要.....	4
5. 沿革.....	5
6. 入館者の状況.....	8
7. 視察受け入れ状況.....	9
8. 広報・報道実績.....	10
9. 特別展.....	11
10. 企画展など.....	16
11. その他の事業.....	20
12. 教育普及活動.....	25
13. 博物館ボランティア（シーダー）の活動.....	31
14. 自然史友の会の活動.....	32
15. 歴史友の会の活動.....	33
16. 資料の収集保存状況.....	34
17. 資料の特別観覧状況（自然史・歴史）.....	35
18. 資料の貸出状況（自然史・歴史）.....	36
19. 画像等資料の貸出状況（自然史・歴史）.....	37
20. 学芸員研究業績（自然史）.....	38
21. 学芸員研究業績（歴史）.....	43
22. 博物館刊行物.....	45

1. 組織・運営体制

(1) 平成 29 年度組織

(平成 30 年 3 月末日時点)



(2) 名誉館員

太田 正道 (2002. 11. 3)	藤丸 詔八郎 (2005. 4. 1)	戸来 義臣 (2007. 4. 1)
税田 昭徳 (2007. 4. 1)	藤井 厚志 (2008. 4. 1)	小野 勇一 (2010. 4. 1)
岡崎 美彦 (2010. 4. 1)	永尾 正剛 (2011. 4. 1)	有川 宜博 (2012. 3. 1)
上田 恭一郎 (2013. 4. 1)	伊藤 明夫 (2015. 4. 1)	山根 明弘 (2016. 4. 1)

※ 括弧内は、就任日

2. 博物館協議会

(1) 博物館協議会委員（任期 平成 29 年 9 月 1 日～平成 31 年 8 月 31 日）

会長	伊澤雅子	琉球大学理学部海洋自然科学科教授
副会長	木村洋子	一級建築士、東田まちづくり協議会メンバー
	井上龍子	八幡駅前開発株式会社代表取締役社長
	岩松文代	北九州市立大学文学部教授
	緒方 泉	九州産業大学美術館教授
	近藤勝彦	北九州市立黒畑小学校校長
	染川香澄	ハンズ・オン プランニング代表
	富田幸光	国立科学博物館名誉研究員
	丸山誠吾	北九州市立高見中学校校長
	三島美佐子	九州大学総合研究博物館准教授

(2) 開催日時

平成 29 年 10 月 5 日（木） 10:00～14:00

(3) 内容

1) 平成 28 年度事業実績（博物館年報）について

ア 概要

イ 特別展開催実績

「関門幕末維新伝」(H28. 10. 1～H28. 11. 27)

「発掘された日本列島 2016」(H29. 1. 2～H29. 2. 19)

「ホントはすごい！ どうぶつ展～飛ぶ！走る！泳ぐ！～」(H29. 3. 18～H29. 5. 14)

ウ 東アジア友好博物館交流事業

エ ジオパーク活動推進事業

オ 博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業

2) 平成 29 年度事業計画について

ア 概要

イ 特別展開催計画

「大昆虫博」（結果報告）

「最後の戦国武将 小倉藩主 小笠原忠真」

「アクア・キングダム」

「Bones～骨、ほね、ホネ～」

ウ いのちのたび博物館開館 15 周年記念イベント

エ 東アジア友好博物館交流事業

オ ジオパーク活動推進事業

3) 質疑応答

3. 平成 29 年度予算

歳 入 (単位：千円)		歳 出 (単位：千円)	
博物館使用料 (常設展入館料、駐車場料金など)	128,668	企画展・特別展開催経費	55,600
社会教育施設目的外使用料 (ミュージアムショップ使用料など)	1,556	資料整備・調査研究経費	13,074
企画費雑入 (特別展観覧料、刊行物販売など)	46,678	教育普及経費	3,211
		博物館維持管理経費等	240,182
計	176,902	計	312,067

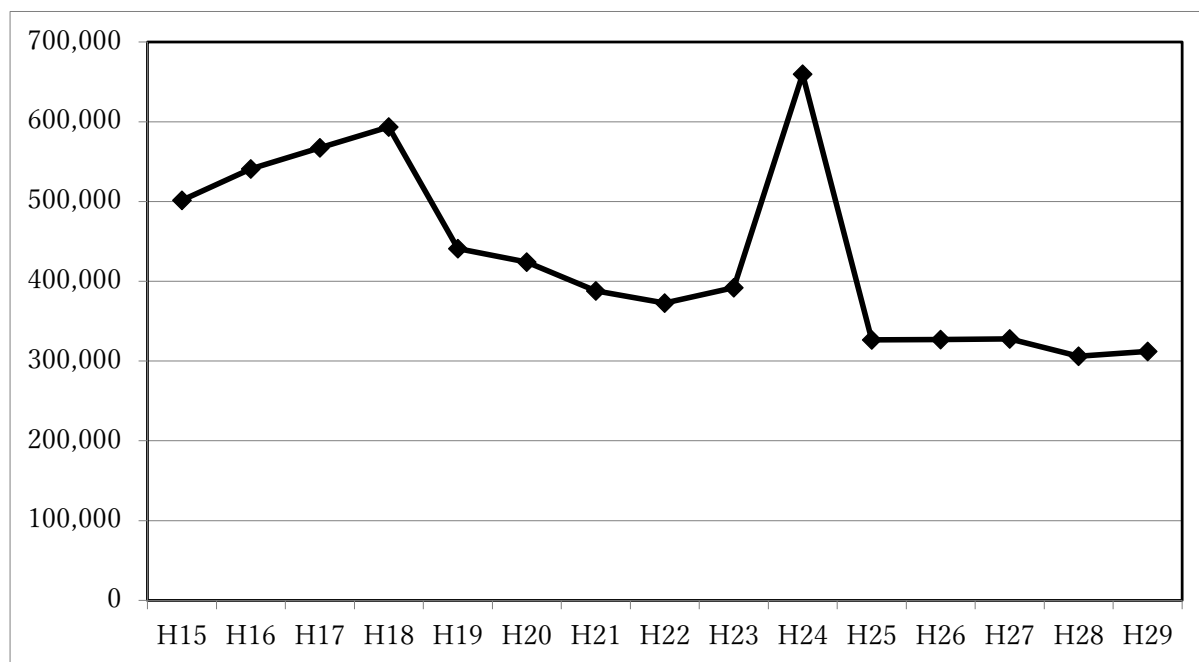
博物館予算(歳出)の推移

(単位：千円)

年 度	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
予算額	2,476,072	501,604	540,788	567,441	593,467	441,058	424,070	387,868
備 考	H14.11.3 開館		内、太陽光発電設備整備 32,000	内、太陽光発電設備整備 60,000	内、太陽光発電設備整備 108,000			
年 度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
予算額	372,731	392,184	659,576	326,569	326,913	327,833	306,067	312,067
備 考			内、博物館展示・施設等改修事業 300,000					

博物館予算(歳出)の推移 (グラフ)

(単位：千円)



4. 施設概要

構造 鉄筋コンクリート造（一部鉄骨構造） 地上 3階

各室面積

(単位：㎡)

室名	面積	室名	面積	室名	面積
展示部門	6,232	研究処理部門	871	管理部門	624
アースモール(PMを除く)	1,885	地学系研究室	57	館長室	25
ぼけっとミュージアム(PM)	253	生物系研究室(植物・昆虫)	29	副館長室	25
エンバイラマ館(リサーチゾーンを含む)	1,067	生物系研究室(動物・魚類)	29	事務室	163
自然発見館(バイオリウムを含む)	581	歴史研究室	87	応接室	32
ギャラリー館	509	骨格標本作成室	36	会議室	62
歴史展示(カルチャーモールを含む)	1,755	燻蒸室(前室を含む)	30	印刷室・出版物保管室	29
こどもミュージアム(乳幼児対象)	89	解剖室	46	救護室	21
こどもミュージアム(小学生対象)	93	無脊椎動物化石処理室	30	更衣室	13
		脊椎動物化石処理室	30	一般倉庫	57
		岩石鉱物処理室	37	交流員控室	25
		昆虫標本処理室	30	管理人室	26
		動植物標本処理室	60	会議室S	30
		液浸標本処理室	30	会議室R	30
情報部門	1,018	技工室	60	会議室X	49
		整理室	60	外来市民研究室	37
ホール(オープンギャラリーを含む)	509	暗室(前室を含む)	26		
ガイド館(倉庫2を含む)	386	撮影室	41		
情報館	123	電子顕微鏡室	40		
		コンピューター室	28		
		保存科学室	40		
探究部門	204	薬品室・特殊薬品室	25		
実習室	123	シャワー室	6		
講座室	81	器材倉庫	14		
収蔵部門	2,506				
荷解室	96			サービス部門	463
一時保管室	64			ミュージアムショップ	156
組立室	52			休憩ルーム	206
冷凍室・冷蔵室(前室を含む)	49			休憩デッキ	101
地学系収蔵庫	202				
液浸標本収蔵庫	221			供用部門	5,093
重量物収蔵庫	204				
植物標本収蔵庫	234				
動物標本収蔵庫	165				
昆虫標本収蔵庫	238				
模式標本収蔵庫	44				
歴史資料収蔵庫	430				
考古資料収蔵庫(金属器を含む)	75				
特別収蔵庫	71				
古文書・古美術収蔵庫	140				
書庫	138				
展示準備室	83				
				合計	17,011

5. 沿革

- 昭和 50(1975)年 【歴史】 8月 北九州市立歴史博物館開館 (8/1)
- 昭和 51(1976)年 【歴史】 1月 特別展「豊前修験道・英彦山展」
- 【自然史】 5月 小学生の発見をきっかけに、山田弾薬庫跡地で世界最古のニシン料魚類化石
ディプロミスタスが発掘される
- 【歴史】 10月 特別展「洞海湾の歴史」
- 【自然史】 10月 北九州産魚類化石展「北九州市の魚類化石～化石から見た北九州～」
主催：北九州市教委・北九州市産魚類化石展示実行委員会
- 昭和 53(1978)年 【自然史】 4月 戸畑市民会館内に「自然史博物館開設準備室」設置
- 【自然史】 10月 マッコウクジラの生の骨が到着
- 昭和 54(1979)年 【自然史】 1月 「北九州自然史友の会」が発会し、機関誌「わたしたちの自然史」の発行 (1/7)
- 昭和 55(1980)年 【歴史】 7月 特別展「日韓文化交流展～古代のロマンを求めて～」
- 昭和 56(1981)年 【自然史】 5月 北九州市立自然史博物館が八幡駅ビルの2・3・4階を仮施設として開館 (5/2)
- 昭和 58(1983)年 【考古】 8月 北九州市立考古博物館開館 九州最初の考古学専門博物館として小倉北区金田
一丁目に開館 (8/1)
- 【歴史】 10月 特別展「北九州のまつり芸能」
- 昭和 59(1984)年 【自然史】 9月 北九州市と大連市の友好都市締結5周年記念として、中国大連市の大連自然博
物館で「世界の昆虫」展を開催
- 【歴史】 10月 特別展「北九州甲冑展～よろい・かぶとの歴史～」
- 【自然史】 12月 響灘沖から巨大珪化木の引き上げ
- 昭和 60(1985)年 【歴史】 10月 特別展「小倉藩創始 細川家の歴史展」
- 昭和 61(1986)年 【自然史】 8月 開館5周年記念特別展 「中国の動物と恐竜の世界展」
- 昭和 62(1987)年 【歴史】 10月 特別展「わが町の宝 北九州市の指定文化財展」
- 昭和 63(1988)年 【考古】 8月 開館5周年記念特別展 「北九州の中国陶磁展」
- 平成 2(1990)年 【歴史】 10月 特別展「関門の潮流展～翔けぬけた鎌倉武士たち～」
- 平成 4(1992)年 【自然史】 3月 開館10周年記念出版物として「山田緑地の自然」を発行
- 平成 5(1993)年 【考古】 4月 考古博物館友の会発足
- 【考古】 10月 開館10周年記念特別展「終末期の古墳展」
- 平成 7(1995)年 【考古】 5月 展示解説ボランティア制度発足
- 【歴史】 8月 戦後50周年記念特別展「北九州平和資料展～戦時下の市民の暮らし～」
- 平成 8(1996)年 【自然史】 7月 展示解説ボランティア制度発足
- 【総合】 10月 「東田地区文化施設整備構想検討委員会」(委員長 有馬朗人 東京大学名誉教
授)が、「環境」を共通テーマとする自然史、産業科学、環境、歴史の4館か
らなるシャイン博物館構想「東田地区文化施設の整備の方向について」を報告
- 平成 10(1998)年 【考古】 8月 開館15周年記念特別展「西と東の縄文土器展」
- 平成 11(1999)年 【総合】 6月 (仮称)北九州市立自然史博物館・歴史博物館起工
- 平成 12(2000)年 【歴史】 10月 特別展「伊能忠敬と九州展」
- 平成 13(2001)年 【総合】 3月 (仮称)北九州市立自然史博物館・歴史博物館の建物が竣工
- 平成 14(2002)年 11月 北九州市立自然史・歴史博物館 開館 (小野勇一館長) (11/3)
開館記念特別展「セイスモサウルスとその世界」(11/3～12/28 : 56日間)
- 平成 15(2003)年 3月 開館記念特別展「COME BACK～よみがえれ文化と生きものたち～」(3/1～4/6 :
37日間)
- 4月 特別展「ミネラルワールド九州・山口 わたしたちのまわりの鉱物展」(4/26～6/8 : 44日間 :
25,871人)
- 7月 特別展「発見！虫王国」(7/19～8/31 : 44日間 : 79,687人)
- 9月 特別展「恐竜時代の生き物たち」(9/19～10/13 : 25日間 : 12,828人)
- 10月 特別展「発掘された日本列島2003」(10/26～11/30 : 36日間 : 11,260人)
- 12月 企画展「絵で見る植物の世界」(12/6～12/23 : 18日間)
- 平成 16(2004)年 1月 企画展「博物館のお正月」(1/2～2/1 : 31日間)

- 3月 企画展「博多祇園山笠展～まつりにみる福岡の歴史～」(3/5～4/11：38日間)
- 4月 特別展「葛飾北斎展」(4/23～5/23：31日間：14,262人)
- 7月 特別展「からくり・ロボット体験ランド」(7/17～9/5：51日間：50,712人)
- 10月 企画展「～片山正信氏の版画に見る～昭和の北九州百景」(10/1～12/26：87日間)
- 企画展「襤褸の世界～堀切辰一・布のいのち見つめて～」(10/8～11/28：52日間)
- 平成 17(2005)年 1月 特別展「古代都市誕生～飛鳥時代の仏教と国づくり～」(1/2～2/20：50日間：11,590人)
- 3月 特別展「なぜ？なに？ 動物ワールド」(3/19～5/8：51日間：26,638人)
- 7月 特別展「生きもの大集合 世界の両生・爬虫類展」(7/16～9/4：51日間：76,623人)
- 10月 企画展「鶏民芸品展～秋篠宮コレクション～」(10/8～11/20：44日間)
- 入館者 100万人達成！(10/26)
- 11月 特別展「大名細川家～文と武の軌跡～」(11/18～12/11：24日間：3,739人)
- 12月 特別展「恐竜博 2005～恐竜から鳥への進化～」(12/23～3/31：99日間：207,397人)
- 平成 18(2006)年 4月 企画展「化石王 三葉虫」(4/29～5/28：30日間)
- 7月 特別展「昆虫ワールド・カップ 2006」(7/15～9/3：51日間：76,008人)
- 9月 企画展「アイヌ文様の美～線のいのち、息づくかたち～」(9/23～11/26：65日間)
- 12月 特別展「驚異の地下帝国 始皇帝と彩色兵馬俑展～司馬遷『史記』の世界～」(12/14～3/31：104日間：63,811人)
- 平成 19(2007)年 4月 企画展「有明海 干潟を育む生き物と文化～中尾勘悟写真展～」(4/15～5/6：22日間)
- 7月 開館 5周年記念特別展「世界最大の翼竜展～恐竜時代の空の支配者～」(7/7～9/2：58日間：96,103人)
- 10月 開館 5周年記念特別展「修験の歴史と自然～西日本の山の信仰～」(10/12～11/11：31日間：2,580人)
- 12月 特別展「フェアブルにまなぶ」(12/22～2/11：52日間：18,658人)
- 平成 20(2008)年 3月 入館者 200万人達成！(3/22)
- 企画展(開館 5周年記念事業)「5年間のあゆみ展」(3/22～4/6：16日間)
- 4月 企画展「絵で見る植物界の多様性 原田英子植物画展」(4/19～5/11：23日間)
- 7月 北九州市・仁川広域市姉妹都市提携 20周年記念展「近代北九州百年の歩み」を仁川広域市立博物館で開催(7/19～9/21：65日間)
- 特別展「シーラカンス展 ブラジルの化石と大陸移動の証人たち」(7/12～8/31：51日間：56,360人)
- 8月 北九州市・仁川広域市姉妹都市提携 20周年記念展「開港場仁川の情景」(8/2～10/5：65日間)
- 10月 特別展「美しき九州の旅～「大正広重」初三郎がえがくモダン紀行～」(10/11～11/30：51日間：6,659人)
- 平成 21(2009)年 1月 特別展「小倉のお殿さま～小笠原家と城下町～」(1/2～2/8：38日間：6,513人)
- 3月 企画展「ひとと海のものごたがり」(3/1～5/10：71日間)
- 5月 企画展「自然史友の会って何？ 友の会 30年のあゆみと活動」(5/23～6/14：23日間)
- 7月 特別展「恐竜ラボ 2009～よみがえれ！恐竜ワールド」(7/18～8/31：45日間：64,628人)
- 9月 特別展「世界遺産ナスカ 地上絵の謎」(9/19～11/23：66日間：30,266人)
- 平成 22(2010)年 1月 特別展「布のこころ 受け継がれる母の想いとくらしの美」(1/2～2/21：51日間：6,567人)
- 2月 中国大連市の旅順博物館と友好交流協定を締結(2/6)
- 3月 特別展「どうぶつ大集合！肉食系？草食系？ なにをたべているのかな？」(3/20～5/30：72日間：28,327人)
- 4月 伊藤明夫館長が就任
- 7月 特別展「昆虫大接近！～みんなであそぼう・虫たちの森～」(7/17～9/5：51日間：71,641人)
- 10月 特別展「禅寺広寿山の名宝～小倉にひらいた中国文化の華～」(10/9～11/28：51日間：4,881人)
- 11月 仁川広域市立博物館、旅順博物館と「東アジア友好博物館に関する合意書」調印(11/6)
- 平成 23(2011)年 1月 特別展「古代メキシコ・オルメカ文明展 マヤへの道」(1/2～3/31：89日間：22,598人)
- 入館者 300万人達成！(1/15)

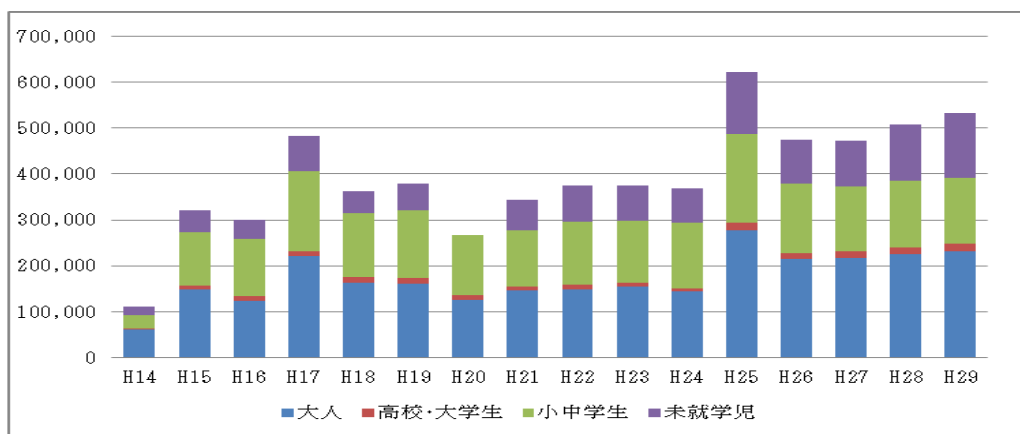
- 2月 入館者 300 万人達成記念「ありがとう祭」(2/11～13：3日間)
- 4月 特別展「エビとカニのふしぎ 杉浦千里博物画の世界」(4/23～5/31：39日間：19,297人)
- 7月 特別展「世界の両生類・爬虫類大集合！」(7/16～9/4：51日間：74,797人)
- 10月 特別展「大連・モダンの風景 旅順博物館所蔵大連古写真展／鉄道展～あじあ号から新幹線～」
(10/7～12/11：66日間：11,493人)
- 平成 24(2012)年 12月 特別公開「小惑星探査機『はやぶさ』帰還カプセル」(12/22～12/25：4日間：11,158人)
- 1月 特別展「大内文化と北九州 戦国の世に花開く雅の世界」(1/2～2/12：42日間：4,559人)
- 3月 特別展「アンモナイトのふしぎ～首長竜やモササウルスとの戦い～」(3/10～5/6：58日間：
25,121人) 同時開催「みんなで救った被災標本展」(同期間：6,857人)
- 7月 特別展「対決！恐竜展」(7/14～9/23：72日間：102,921人)
- 10月 特別展「いのちのたび博物館 10年のあゆみ～とっておきのコレクションが勢ぞろい～」(10/20
～12/2：44日間：30,283人)
- 11月 開館 10周年記念行事 (11/3～4)
- 12月 リニューアル工事閉館 (12/3～3/22)
- 平成 25(2013)年 3月 リニューアルオープン (3/23)
- 4月 北九州市制 50周年記念特別展「北九州市の宝もの」(4/20～6/16：58日間：30,740人)
- 7月 北九州市制 50周年記念特別展「世界の昆虫展」(7/13～9/1：51日間：125,805人)
入館者 400万人達成！(7/25)
- 9月 北九州市制 50周年記念特別展「邪馬台国が見える!! 古代日本の原風景」(9/14～11/4：52
日間：20,990人)
- 12月 北九州市制 50周年記念特別展「仁川広域市立博物館・旅順博物館の名品展」(12/21～28, 1/2
～2/11：49日間：24,852人)
- 平成 26(2014)年 3月 特別展「まるごと猫展」(3/15～6/1：79日間：54,700人)
年間入場者 60万人超達成！(3/31：622,701人。過去 10年間 [H15～24] の最多は平成
17年度 483,495人で、平均は 363,379人)
- 7月 特別展「THE モンスター展～自然界の怪物たち～」(7/19～9/23：67日間：117,585人)
- 11月 特別展「メタルズ！～変容する金属の美～」(11/1～12/23：53日間：11,448人)
- 平成 27(2015)年 3月 特別展「地球からの贈り物～石の美と魅力～」(3/21～5/10：51日間：26,182人)
- 4月 上田恭一郎館長が就任
- 7月 入館者 500万人達成！(7/4)
入館者 500万人達成記念特別展「スペイン奇跡の恐竜たち」(7/11～9/23：75日間：
102,123人)
- 10月 入館者 500万人達成記念特別展「医は仁術～解体新書から iPS 細胞まで～」(10/10～1/11：90
日間：20,058人)
- 平成 28(2016)年 1月 特別展「大正・昭和の暮らしと風景～版画に見る／布が語る～」(1/23～2/28：37日間：
6,535人)
- 3月 特別展「ふしぎの教室～よみがえる学校標本たち～」(3/19～5/15：58日間：30,891人)
- 7月 特別展「恐竜博 2016」(7/9～9/4：58日間：125,153人)
- 10月 特別展「関門幕末維新伝」(10/1～11/27：58日間：15,327人)
- 平成 29(2017)年 1月 特別展「発掘された日本列島 2016」(1/2～2/19：49日間：10,826人)
- 3月 特別展「ホントはすごい！どうぶつ展～飛ぶ！走る！泳ぐ！～」(3/18～5/14：58日間
50,594人)
- 7月 開館 15周年記念イベント第 1 弾 (7/14～9/3)
開館 15周年記念特別展「大昆虫博」(7/15～9/3：51日間：122,294人)
入館者 600万人達成！(7/27)
- 10月 開館 15周年記念イベント第 2 弾 (10/7～2/25)
開館 15周年記念特別展「最後の戦国武将 小倉藩主 小笠原忠真」(10/7～12/3：58日間：
11,436人)
- 12月 開館 15周年記念特別展「アクア・キングダム～スピノサウルスと水に還ったどうぶつたち
～」(12/23～2/25：61日間：37,227人)
- 平成 30(2018)年 3月 特別展「Bones～骨、ほね、ホネ～」(3/17～5/13：58日間：37,000人)

6. 入館者の状況

	年度	大人	高校・大学生	小中学生	未就学児	年計	累計
入館者 総数 (人)	14	60,946 (55.1%)	2,677 (2.4%)	29,903 (27.0%)	17,096 (15.5%)	110,622 (100.0%)	162,527
	15	148,376 (46.2%)	7,950 (2.5%)	117,407 (36.5%)	47,692 (14.8%)	321,425 (100.0%)	483,952
	16	124,591 (41.5%)	9,262 (3.1%)	125,566 (41.8%)	40,644 (13.6%)	300,063 (100.0%)	784,015
	17	220,645 (45.6%)	11,699 (2.4%)	173,303 (35.9%)	77,848 (16.1%)	483,495 (100.0%)	1,267,510
	18	163,725 (45.2%)	12,630 (3.5%)	137,387 (37.9%)	48,549 (13.4%)	362,291 (100.0%)	1,629,801
	19	160,194 (42.2%)	12,771 (3.4%)	147,601 (38.9%)	58,881 (15.5%)	379,447 (100.0%)	2,009,248
	20	125,898 (39.0%)	10,487 (3.2%)	131,344 (40.7%)	54,997 (17.2%)	322,726 (100.0%)	2,331,974
	21	145,843 (42.5%)	8,151 (2.4%)	124,106 (36.1%)	65,290 (19.0%)	343,390 (100.0%)	2,675,364
	22	148,752 (39.6%)	10,516 (2.8%)	137,441 (36.6%)	78,881 (21.0%)	375,590 (100.0%)	3,050,954
	23	154,803 (41.2%)	8,933 (2.4%)	134,619 (35.8%)	77,299 (20.6%)	375,654 (100.0%)	3,426,608
	24	144,271 (39.0%)	7,267 (2.0%)	143,409 (38.8%)	74,764 (20.2%)	369,711 (100.0%)	3,796,319
	25	277,499 (44.6%)	16,837 (2.7%)	191,914 (30.8%)	136,451 (21.9%)	622,701 (100.0%)	4,419,020
	26	214,140 (45.1%)	13,880 (2.9%)	150,867 (31.8%)	96,052 (20.2%)	474,939 (100.0%)	4,893,959
	27	216,842 (45.9%)	14,645 (3.1%)	141,525 (30.0%)	99,377 (21.0%)	472,389 (100.0%)	5,366,348
	28	224,878 (44.3%)	15,445 (3.0%)	144,379 (28.4%)	123,301 (24.3%)	508,003 (100.0%)	5,874,351
29	230,942 (43.4%)	16,879 (3.2%)	142,794 (26.8%)	141,495 (26.6%)	532,110 (100.0%)	6,406,461	

※平成14年度は、11/3～11/10 無料期間 51,905 人を累計に含む。

※平成24年度は、12/3～3/22 が改装工事で休館。



7. 視察受け入れ状況

平成29年度 視察訪問受け入れ状況

No.	月日	申請者	訪問者・団体	人数
1	5月17日	佐賀県立佐賀城本丸歴史館	佐賀県立佐賀城本丸歴史館統括副館長ほか	4
2	5月25日	北九州市観光にぎわい部	中国江蘇省江陰市教育関係者	8
3	6月27日	北九州市議会事務局	釧路市議会議員	6
4	7月5日	札幌市教育委員会	札幌市教育委員会生涯学習推進課長	1
5	7月6日	北九州市議会事務局	沖縄県北谷町議会議員	4
6	8月2日	公益財団法人京都市環境保全活動推進協会	京エコロジーセンター職員	3
7	8月2日	北九州市選挙管理委員会行政委員会	総務省自治行政局選挙部職員	3
8	8月7日	北九州市観光にぎわい部	広島市立小学校教諭	4
9	8月8日	北九州市議会事務局	埼玉県上尾市議会議員	12
10	8月18日	北九州市観光にぎわい部	リーガロイヤルホテルグループ営業担当者	25
11	9月7日	滋賀県立琵琶湖博物館	滋賀県立琵琶湖博物館職員	1
12	10月6日	北九州市芸術文化振興財団	全国埋蔵文化財法人連絡協議会職員	26
13	10月7日	環境局環境国際戦略課	タイ国環境学習交流研修生	23
14	10月8日	福岡県高等学校地学部会	福岡県高等学校理科関係職員	20
15	10月13日	和歌山県立自然博物館	和歌山県立自然博物館学芸員	2
16	11月14日	公益財団法人宮崎文化振興協会	大淀川学習館職員	1
17	1月25日	ヌマジ交通ミュージアム	ヌマジ交通ミュージアム職員	1
18	2月4日	石川県能美市議会事務局	石川県能美市議会議員	4
19	3月2日	産業経済局観光課	自治体連携タイ旅行社視察ツアー参加者	6
20	3月22日	兵庫県丹波市教育委員会	兵庫県丹波市教育委員会事務局職員	2

合計 156

8. 広報・報道実績

(1) 平成 29 年度特別展関連広報・報道状況記録

1) 春の特別展「ホントはすごい! どうぶつ展」関連 (H29. 4. 1 分から)

ア) 新聞	4 誌	58 件	エ) ラジオ	5 社	38 件
イ) 雑誌等	17 誌	22 件	オ) インターネット	16 社	19 件
ウ) テレビ	4 社	31 件			

2) 夏の特別展「大昆虫博」関連

ア) 新聞	6 誌	111 件	エ) ラジオ	4 社	11 件
イ) 雑誌等	19 誌	23 件	オ) インターネット	16 社	19 件
ウ) テレビ	4 社	43 件			

3) 秋の特別展「最後の戦国武将 小倉藩主 小笠原忠真」関連

ア) 新聞	5 誌	119 件	エ) ラジオ	1 社	3 件
イ) 雑誌等	8 誌	16 件	オ) インターネット	16 社	20 件
ウ) テレビ	2 社	46 件			

4) 冬の特別展「アクア・キングダム」関連

ア) 新聞	6 誌	109 件	エ) ラジオ	4 社	6 件
イ) 雑誌等	15 誌	23 件	オ) インターネット	16 社	19 件
ウ) テレビ	4 社	7 件			

5) 春の特別展「Bones～骨、ほね、ホネ～」関連 (H29. 3. 31 分まで)

ア) 新聞	3 誌	33 件	エ) ラジオ	4 社	5 件
イ) 雑誌等	11 誌	11 件	オ) インターネット	13 社	14 件
ウ) テレビ	2 社	26 件			

(2) 平成 29 年度その他広報・報道状況記録

新聞	5 誌	41 件
雑誌等	21 誌	21 件
テレビ	5 社	5 件
ラジオ	1 社	1 件
インターネット	8 社	8 件

9. 特別展

(1)「ホントはすごい! どうぶつ展～飛ぶ! 走る! 泳ぐ!～」

期 間：平成 29 年 3 月 18 日（土）～平成 29 年 5 月 14 日（日）
58 日間（前年度からの継続事業）

会 場：ギャラリー館、オープンギャラリー

入 場 料：大人 500 円（団体 400 円）、高・大生 300 円（同 240 円）、
小・中生 200 円（同 160 円）、未就学児無料

観覧者数：50,594 名（前年度入場者含む）

担当学芸員：武石全慈、馬場 稔

主 催：北九州市立いのちのたび博物館、毎日新聞社

後 援：福岡県教育委員会、NHK 北九州放送局

特別協力：北九州・魚部

協 力：大阪市立自然史博物館、北九州市立総合農事センター、
岐阜大学応用生物科学部、滋賀県立琵琶湖博物館、
名古屋大学大学院理学研究科、灰谷 慈（秋吉台自然動物公園サファリランド）、和田直己（山口大学共同獣医学部生体システム科学）



概 要

生物の移動方法には、翼や翅によって空中を「飛ぶ」、四肢を用いて陸上を「走る」、鱗や体全体を使って水中を「泳ぐ」などがある。この展示会では、これらの移動方法で特に卓越した能力を発揮する生物を中心に上げ、そのメカニズムや生活の仕方、形態等を紹介した。

主な展示標本

「飛ぶ!」（飛ぶ!、滑空する!、跳ぶ!、風を利用する植物に区分）、「走る!」、「泳ぐ!」の 3 コーナーで構成した。300km/時以上で飛ぶハヤブサ、8,000m 級のヒマラヤを越えるアネハヅル、体長の 100 倍以上もジャンプするネコノミ（400 倍拡大模型も展示）、瞬間速度が 100km/時を越えて疾走するチーター、人を乗せて 60km/時以上で走るサラブレッド、魚類最速で泳ぐバショウカジキなど 148 種、最終的に 300 点を超える標本を展示した。市立総合農事センターで飼育され 33 歳の木曾馬最長寿で亡くなった「幸春号（愛称さっちゃん）」の剥製も紹介した。

また、北九州・魚部による日本のドジョウ類全 33 種・亜種（1 亜種を除き生体展示）を紹介する「大どじょう展」も合わせて開催した。

関連事業

会期中、「ナイトミュージアム」を 2 回、「タネのグライダーづくり」のワークショップを 8 日間で 16 回、「ドジョウ博士講演会」・「びわ湖博士講演会」を各 1 回、「魚部員ドジョウ語り」の講話を 3 回実施した。

（武石全慈）



(2)「大昆虫博」

期 間：平成 29 年 7 月 15 日（土）～平成 29 年 9 月 3 日（日）
51 日間

会 場：ギャラリー館、オープンギャラリー、ガイド館

入 場 料：大人 800 円（団体 640 円）、高・大生 500 円（同 400 円）、
小・中生 400 円（同 320 円）、未就学児無料

観覧者数：122, 294 人

担当学芸員：蓑島悠介、下村通誉

主 催：北九州市立いのちのたび博物館、毎日新聞社、RKB 毎日
放送

後 援：福岡県教育委員会、NHK 北九州放送局

特別協力：北九州・魚部

特別協賛：全労済福岡県本部

協 力：ビックベアーズフーズサービス



概 要

身近な生物であり、陸上で最も繁栄した生物である昆虫の多様性を実感していただき、また楽しんでいただけるような特別展を目指し、世界の蝶、カブトムシ、クワガタムシをはじめとした現生昆虫標本 15,000 点以上と、50 種以上の生きた昆虫・毒虫の他、昆虫採集道具や化石についても展示した。また、北九州・魚部の協力で、展示会場内で「魚部室@ヒメドロムシとゲンゴロウ展」を行った。来場者 12 万人を超える特別展となった。

主な展示標本

岡野喜久麿氏蝶類コレクション、上田将人氏の日本産クワガタムシコレクション、磯貝島根氏の世界のクワガタコレクション、当館所蔵のカブトムシコレクション、福原琉矢氏が採集した雌雄モザイクのミヤマクワガタ、15センチメートルの巨大なタイタンオオウスバカミキリなど合計 15,000 点以上の標本を展示した。昆虫の生態展示ではコノハムシ、ナナフシなどを農林水産大臣の輸入・展示許可を受け展示、特にコノハムシは 4 種を展示したほか、世界のクワガタ・カブトムシ、バイオリンムシ、ハナカマキリ、世界のゴキブリなどを展示した。昆虫との比較として生きた毒虫（タランチュラ、ヒョケムシ、ムカデ）を展示した。北九州・魚部による「魚部室@ヒメドロムシとゲンゴロウ展」では様々な水生昆虫の生態展示や日本と世界のヒメドロムシ・ゲンゴロウの標本展示を行った。

関連事業

特別展イベントとして、昆虫標本作成実演などのワークショップや学芸員によるギャラリートーク、ナイトミュージアムを行った。

(蓑島悠介)



(3) 「最後の戦国武将 小倉藩主 小笠原忠真展」

期 間：平成 29 年 10 月 7 日（土）～平成 29 年 12 月 3 日（日）
58 日間

会 場：ギャラリー館、オープンギャラリー

入 場 料：大人 500 円（団体 400 円）、高・大生 300 円（同 240 円）、小・中生 200 円（同 160 円）、未就学児無料

観覧者数：11,436 人

担当学芸員：守友 隆

主 催：北九州市立いのちのたび博物館、毎日新聞社

後 援：福岡県教育委員会、NHK 北九州放送局

協 力：明石市立文化博物館ほか 42 機関・団体

概 要

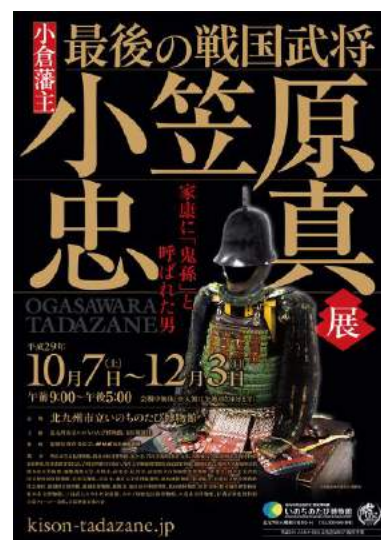
小笠原忠真（1596～1667）は、小笠原小倉藩の初代藩主で、戦国時代に武田信玄と戦った信濃国（現長野県）の守護の小笠原長時のひ孫である。母方の曾祖父には徳川家康・織田信長がいた。開催年は没後 350 年にあたる。

小笠原家は徳川將軍家の準一門として、有力外様大名と婚姻を結び、九州の「咽喉」である豊前国小倉を拠点として、「九州御目付」・「九州探題」として活躍した。

忠真（松本藩主→明石藩主→小倉藩主）ゆかりの品をはじめ、彼の曾祖父の家康・信長といった天下人、小笠原家の親族である細川（小倉、熊本藩）・蜂須賀（徳島藩）・本多（姫路藩）・黒田家（福岡藩・秋月藩）などの各種資料を全国各地から一堂に集め、忠真と小倉が日本の歴史で果たした役割を解き明かした。

関連事業

特別展イベントとして、岡山大学文学部准教授三宅正浩氏の講演会、学芸員によるギャラリートーク、史跡探訪講座「北九州の城跡を歩く—小倉城跡—」、ナイトミュージアムなどを行った。



(守友 隆)



(4)「アクア・キングダム-スピノサウルスと水に還ったどうぶつたち-」

期 間:平成 29 年 12 月 23 日(土)～平成 30 年 2 月 25 日(日)
61 日間

会 場:ギャラリー館、オープンギャラリー

入 場 料:大人 500 円(団体 400 円)、高・大生 300 円(同 240 円)、小・中生 200 円(同 160 円)、未就学児無料

観覧者数:37,227 人

担当学芸員:大橋智之

主 催:北九州市立いのちのたび博物館、毎日新聞社

後 援:福岡県教育委員会、NHK 北九州放送局、日本古生物学会



概 要

「脊椎動物の二次的水生適応」をテーマに、陸上にいた祖先から生活の場を海などの水の中に移した脊椎動物の絶滅種と現生種を爬虫類・鳥類・哺乳類の各分類群で紹介した。水中生活に適応した脊椎動物の形態的な特徴や機能を解説し、陸上の祖先からどのような進化を遂げて水中という環境に適応していったのか、その多様化について展示で示した。各種メディアにも取り上げていただき 3 万人を超える来場者の特別展となった。

主な展示標本

水中生活に適応していた学説が出された史上最大の肉食恐竜スピノサウルスの全身復元骨格、推定全長 21m の史上最大の海の爬虫類・魚竜のショニサウルス頭骨復元、全長約 4m のイリエワニ剥製などの大型標本の他、北九州市から産出した絶滅鳥類コペプテリクス、クジラ類ヤマトケタスの実物化石(ホロタイプ標本)の特別展示、その他実物化石や剥製、骨格標本など約 700 点の標本を展示した。

関連事業

12 月 24 日(日)に海の学びミュージアムサポートの助成を受けた「シーラカンスが語る 海のおいたち」講座を開催。1 月 7 日(日)にナイトミュージアムを開催し 614 名の参加者。2 月 11 日(日)に公益財団法人下関海洋科学アカデミー鯨類研究室室長の石川創氏による特別講演「くじらは海のほ乳類」を開催した。

(大橋智之)



Courtesy of The University of Chicago

(5) 「Bones～骨、ほね、ホネ～」

期 間：平成30年3月17日(土)～平成30年5月13日(日)
58日間 (次年度への継続事業)

会 場：ギャラリー館、オープンギャラリー

入 場 料：大人500円(団体400円)、高・大生300円(同240円)、小・中生200円(同160円)、未就学児無料

観覧者数：37,000名(次年度終了時点)

担当学芸員：馬場 稔、大橋智之

主 催：北九州市立いのちのたび博物館、毎日新聞社

後 援：福岡県教育委員会

協 力：津田堅之介生物生態写真研究所、橋元浩一



概 要

哺乳類をはじめとして主に現生脊椎動物の全身骨格および頭骨や四肢骨など部分骨を展示し、形や大きさの違い等を紹介した。骨は、体をささえ、筋肉と共に働いて体を動かし、脳など大切な部分を守るといった重要な役割を果している。また、生きものの骨格標本は、進化の結果としてできあがった美しさも備えている。形態や大きさの比較とともに骨の役割を考え、その美しさを実感してもらうことを目的とした。

主な展示標本

ピラルク、オオサンショウウオ、ビルマニシキヘビ、ダチョウ、ジャガーなど魚類から哺乳類まで代表的な種類の全身骨格を展示した。部分骨の比較では、多数の肉食獣・草食獣の頭骨を展示し形態の違いを紹介したほか、ほとんどの哺乳類の頸椎が7個であること、四肢骨のつくりが基本的に似通っていること、骨の断面の構造などを紹介した。また、骨が化石化する過程や恐竜やワニの頭骨が多くの部分にわかれることなども紹介、全体で約80種、350点の標本で構成した。

角の展示に関連して、津田堅之介ミニ写真展としてニホンジカの生態写真を多数展示した。

関連事業

会期中、「ナイトミュージアム」を2回、実物の骨にさわって観察してもらう「タッチ・ザ・ボーン」のワークショップを6日間で12回、「身近な食べ物から骨の形を知ってみよう～フライドチキンからわかる骨の比較～」の実習・講話を1回実施した。さらに、新しい試みとしてツイッターを使ったBonesフォトコンテストを実施した。

(馬場 稔)



10. 企画展など

(1) 旧八幡市制百年記念企画展

「旧八幡市制 100 年記念 鉄の都・街道のまち 八幡」

期 間：平成 29 年 3 月 17 日（土）～6 月 18 日（月）94 日間

会 場：ぼけっとミュージアムNo. 9～11

入場料：常設展入場料で観覧可能

担 当：日比野利信、中西義昌

概 要

明治 22 (1889) 年尾倉・大蔵・枝光 3 村が合併して八幡村が成立し、同 32 (1899) 年の八幡町を経て、大正 6 (1917) 年 3 月 1 日に八幡市が誕生した。八幡市はその後板櫃町の一部、黒崎町、上津役村、折尾町、旧西谷村の一部、香月町、木屋瀬町を編入して市域を拡大、昭和 38 (1963) 年五市合併により北九州市が誕生し、市としての歴史に幕を閉じた。その後八幡区を経て、昭和 49 (1974) 年八幡東区と八幡西区に分かれ、現在にいたっている。

八幡東区は概ねもとの八幡市で、明治 34 (1901) 年の製鐵所開業を機に急速に工業都市として発展し、「鉄の都」と呼ばれた。八幡西区は江戸時代長崎街道の黒崎宿と木屋瀬宿を有し、明治後期には折尾駅で九州鉄道（鹿児島本線）と筑豊興業鉄道（筑豊本線）が交差するなど陸上交通の要地であった。遠賀川から分水した堀川や明治後半以降に敷設が進んだ鉄道は筑豊の石炭を運び、近代産業の発展に大きな役割を果たした。しかし筑豊の炭鉱が次々に閉山、製鐵所も機能を移転・縮小すると石炭と鉄の時代は終わりを告げ、地域社会は大きく変貌していった。

本展では旧八幡市の市制施行 100 年を記念し、地図や写真、関係資料などによって八幡の独自の発展と変貌の過程を明らかにした。併せて八幡製鐵所が所蔵する貴重な歴史資料とその保存・活用について紹介した。以上により、地域の歴史と文化財の重要性を再認識する機会とした。

(日比野利信)



(2) ユネスコ無形文化遺産登録企画展

「戸畑祇園大山笠」

期 間：平成 29 年 7 月 1 日（月）～8 月 27 日（月）58 日間

会 場：ぼけっとミュージアムNo. 9～11

入場料：常設展入場料で観覧可能

担 当：上野晶子、松井和幸、日比野利信

概 要

2016 年 12 月 1 日、山車が登場する全国 33 の祭りが「山・鉦・屋台行事」としてユネスコの無形文化遺産に登録された。北九州市の戸畑祇園大山笠行事（国指定重要無形民俗文化財）もその一つである。

祭りの最大の特徴は昼の「幟山笠」が夜の「提灯山笠」に変わることにより、高さ 7m、309 個の提灯のゆれる提灯山笠は日本最大規模という。「幟山笠」に掛ける幕類は祇園祭にふさわしい勇壮な武者絵などが金銀糸で刺繍された豪華絢爛なもので、幕末から明治時代にかけて作られた幕類は福岡県の有形民俗文化財に指定されている。

本展では博物館が保管する幕類を中心に展示し、200 年以上祭りを受け継いできた人びとの思いをひもとき、新たにユネスコの無形文化遺産となった祭りの魅力を広く紹介した。

(日比野利信)



(3) 企画展「博物館 DE 古画鑑賞～人物画と花鳥画～」

期 間：平成 29 年 9 月 2 日（金）～10 月 22 日（日）51 日間

会 場：ぼけっとミュージアム No. 9～10

入場料：常設展入場料で観覧可能

担 当：日比野利信、富岡優子

協 力：真鍋 徹（花鳥画植物同定）、武石全慈（花鳥画鳥類同定）

概 要

「古画」はかつて掛軸などとして和室の床の間を飾り、屏風が室内の調度として用いられるなど人びとの日常生活に身近な存在だったが、住宅事情や生活様式の変化により、縁遠い存在となってしまっている。日本など東アジア地域では紙や絹に描かれた絵画作品が多く、西洋の油彩画に比べると脆弱だが、表装技術や保存方法に工夫を凝らし、照明を抑え、温湿度を管理するなど細心の注意を払って大切に守り伝えられてきた。

本展では博物館が所蔵する「古画」のうち、歴史上の人物を描いた作品および色鮮やかな花鳥画作品を展示し、保存や活用のための工夫も合わせて紹介して、「古画」の持つ魅力の再発見を促した。

展示作品：郭汾陽行楽図屏風、豊干・寒山・拾得図、神功皇后図、渡唐天神図、
平家物語扇面貼交図屏風、宗祇馬上図、木下藤吉郎柴田勝家の足を揉む図
四季花鳥図屏風、秋草鶉図、紅白梅鷹図、松に孔雀図、鷺雁図、花卉図

（日比野利信）



(4) 「変わるわたしたちの暮らし」

期 間：平成 29 年 10 月 28 日（土）～

平成 30 年 2 月 18 日（日）114 日間

会 場：ぼけっとミュージアム No. 11

入場料：常設展入場料で観覧可能

担 当：中西義昌、小林孝幸、堺未知、関美幸、
大友進

概 要

北九州市立小学校 3 年生の社会科教科書の単元を基に、資料や写真を通して当時の人々の暮らしや道具の変遷を伝える企画展。この展示により、世代を超えた生活のつながりや現在の暮らし・道具について再考することをねらいとする。展示は以下の 4 つのテーマで構成した。

①昔の暮らし【昭和 20～40 年代の部屋再現】6 畳程度の居間を再現し、その当時の家具・道具を展示。今回はデジタルモニターを組み込んだ当時のテレビを展示し、白黒映像を流すことで当時のテレビの雰囲気伝えることができた／②【すこし前の暮らしと道具／昭和 50～60 年代】2000 年代半ばに生まれた小学校 3 年生にとって昭和 50～60 年代は「すこし前の暮らし」。その頃の暮らしの様子について道具（カラーテレビ・レコード・ラジカセ・ビデオデッキなど）を展示・紹介し、①と比較できるようにした。／③【道具のうつりかわり】家具・道具の変遷をパネルで紹介し、実物資料を通して昭和 20～40 年と大正～昭和 10 年の 2 つの時代を比較して考える。道具の中で、現代とは大きく形・名称が変わっている道具などは、現代ではどのように変わっているかを考えることができるように、クイズ形式のキャプションを設置した。／④昔の遊び【ハンズオンコーナー】小学生以下の子どもを対象にしたハンズオン展示を行った。また、「火のし」と「黒電話」、むかし遊びのコーナーも併せて設置した。

（中西義昌）



(5) 企画展「写真で見る装飾古墳(福岡県・熊本県)」

期 間：平成 29 年 12 月 23 日 (土・祝) ～
平成 30 年 4 月 8 日 (日) 106 日間

会 場：ぼけっとミュージアム No. 9～10

入場料：常設展入場料で観覧可能

担 当：原田智也、松井和幸

概 要

富重安雄氏が 1960 年代に撮影した、九州の代表的装飾古墳の写真が、当館に所蔵されているが、そのうち福岡県、熊本県の装飾古墳壁画写真を紹介する企画展であった。今回は、夏に歴史系の博物館実習を受講した大学生 8 名に解説文を書いてもらい、一般の見学者の方の目線で装飾古墳の紹介が出来たのではないかと思います。

(松井和幸)



(6) シーラカンスと海のおいたち

期 間：平成 29 年 6 月 1 日 (木) ～平成 30 年 3 月 31 日
現在も継続して展示中。

会 場：ぼけっとミュージアム No. 2

入場料：常設展入場料で観覧可能

担 当：藪本美孝

概 要

公益財団法人日本海事科学振興財団「船の科学館」の平成 29 年度「海の学びミュージアムサポート」プログラム 2「海の博物館活動サポート」支援対象事業「シーラカンスから海を学ぶ」の事前学習兼事前告知を兼ねた展示として制作した。

本事業は「国際シーラカンスシンポジウム」、「国際シーラカンスシンポジウム関連普及イベントパート 1～3」とこの展示制作の 3 つの部分からなる。

展示は「生きたシーラカンスの発見」、「シーラカンスとは」、「シーラカンスと大西洋のおいたち」、「シーラカンスとインド洋のおいたち」をテーマとし、たくさんの実物化石のほか、インドネシアシーラカンスのホロタイプレプリカや水中映像などで解説している。また、ハンズオンとして「骨格パズル」を設置した。なお、事前学習兼事前告知はタッチパネルにより提供し、本事業で作成したテキストブックもここからスマートフォンやタブレットにダウンロードすることができる。

(藪本美孝)



(7) 自然史ぼけっとミュージアム展示

期 間：継続中

会 場：ぼけっとミュージアム No. 1～8

テーマ ぼけっとミュージアム No. 1：地球と生命

ぼけっとミュージアム No. 2：細胞のひみつ→シーラカンスと海のおいたち

ぼけっとミュージアム No. 3：大連市との交流

ぼけっとミュージアム No. 4：アンモナイト

ぼけっとミュージアム No. 5：世界の海の貝

ぼけっとミュージアム No. 6：カエルとサンショウウオ

ぼけっとミュージアム No. 7：昆虫の世界

ぼけっとミュージアム No. 8：きたきゅうしゅうの多様な大地、地震のしくみ

(8) 年末(クリスマス) および年始(干支) 展示 (クリスマス展示)

期 間：平成 29 年 12 月 2 日 (土) ～12 月 25 日 (月)

会 場：常設展 2 階休憩スペース

入場料：常設展入場料で観覧可能

担 当：馬場 稔

概 要

クリスマスに合わせてトナカイ剥製標本にそりの模型をとりつけ、サンタクロースの衣装を準備して写真撮影が可能ないように設置した。本年度は設置場所を前年の 3 階恐竜デッキから 2 階休憩スペースに変更した。



(干支展示)

期 間：平成 29 年 12 月 23 日 (土) ～平成 30 年 1 月 15 日 (月)

会 場：エントランス

入場料：無料

担 当：馬場 稔

概 要

平成 30 年の干支である戌 (イヌ) にちなみ、イヌ科動物の標本を展示した。展示資料はイヌのほか、イヌ科動物の代表的存在であるオオカミ、北九州でも身近な動物であるタヌキ、キツネとした。また、剥製標本だけでなく、春の特別展 (Bones～骨、ほね、ホネ～) の告知をかねて頭骨も一緒に展示した。

(馬場 稔)

1.1. その他の事業

(1) 東アジア友好博物館交流事業

当館は北九州市の姉妹都市の韓国・仁川広域市の仁川広域市立博物館、友好都市の中国・大連市の旅順博物館と「東アジア友好博物館に関する合意書」を締結して（平成22年11月5日）、毎年館長会議を開催するとともに、学芸員派遣事業や展示交流事業などを継続的に実施している。平成27年10月にはあらためて「東アジア友好博物館に関する合意書」（第二期）を締結し、事業期間を6年間延長した。第2期の主要事業は隔年での「巡回展」の開催で、「東アジアの生活文化」を統一テーマとして、各館が所蔵する実物資料を中心に企画展を構成し、他の2館に巡回するものである。平成28年度に北九州が「衣」を担当し、「着物が語る日本の心」展を巡回開催した。平成30年度には旅順が「食」を、32年度には仁川が「住」を担当する予定である。

平成29年度は仁川広域市立博物館が当番館であり、6月19日（月）に実務者会議が実施されて、日比野歴史担当係長と原田学芸員が出席、10月17日（火）に館長会議が実施されて、上田館長、井上普及課長、日比野歴史担当係長が出席した。会議では第1回巡回展の成果と課題、第2回巡回展の準備状況、第3回巡回展の企画内容について報告・協議・確認が行われた。

また本年度も昨年度に引き続き文化庁の「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」の助成を受け、第1に、第2回巡回展とそれを拡充して行う食文化展に関わる資料・展示調査や検討会を実施し、企画書の作成につなげた。第2に、展示解説の多言語化について内容・方法両面に関わる調査や検討会を実施し、展示解説音声ガイドの確認・修正につなげるとともに、歴史ゾーンを対象とする展示解説リーフレット（日本語版と韓国語版）を作成した。

（日比野利信）



第8回実務者会議（6月19日、仁川）



第7回館長会議（10月17日、仁川）



中国・遼寧省博物館 展示調査
（1月9日）



仁川広域市立博物館学芸員招聘
常設展調査（2月6日）

(2) ジオパーク活動推進事業

平成 28 年度に引き続き、ジオパーク活動の普及に向けた取り組みを継続した。本市の貴重な地質遺産の市民への周知を深めるため、より魅力的なジオパーク普及講座の開発・実施やジオサイトを紹介する子ども向けパンフレットの作成などを行った。また、日本ジオパークネットワークや九州ジオパーク連絡会主催の事業に参加し、他地域との交流と情報収集に努めた。

主要事業と経過

- 1) ジオパーク普及講座の実施：
 - 室内講座（1 回実施）
 - 野外観察会（ジオツアー、ジオハイキング：8 回実施）
 - 参加者合計 204 名
- 2) 子ども版 3 億年の時間旅行（北九州ジオパーク構想ジオサイトガイド）の作成



- 3) ジオパークホームページの運営 (<http://www.kitakyushu-geo.jp>)、アクセス解析の実施
- 4) 日本ジオパークネットワーク事業等参加
 - ・日本ジオパークネットワーク通常総会参加（平成 29 年 5 月 25 日、東京都）
 - ・第 8 回日本ジオパーク全国大会 2017（男鹿半島・大潟大会）参加（平成 29 年 10 月 25 日、秋田県男鹿市）
 - ・第 12 回九州ジオパーク連絡会参加（平成 29 年 8 月 24 日～8 月 25 日、鹿児島県鹿児島市）
 - ・第 13 回九州ジオパーク連絡会参加（平成 30 年 2 月 27 日～2 月 28 日、熊本県阿蘇市）
(太田泰弘、馬場 稔)

(3) 開館 15 周年記念事業

当館が平成 29 年 11 月 3 日に開館 15 周年を迎えるにあたり、平成 29 年度は様々な周年記念イベントを実施し、来館者や関係者と共に 15 周年を祝い、博物館を盛り上げた。

事業展開としては、プレイベントを中心とした「第 1 弾」(平成 29 年 7 月 14 日～9 月 3 日)と 15 周年記念日当日を含む「第 2 弾」(平成 29 年 10 月 7 日～平成 30 年 2 月 25 日)の 2 つのシーズンにわけて実施した。また、15 周年記念のオリジナルロゴを作成し、チラシや掲示物、オリジナルノートにロゴを付けて、周年記念事業に統一感をもたせ、大々的に PR した。

第 1 弾では、7 月 14 日(金)に上田館長による開館 15 周年記念講演会「いのちのたび博物館の昆虫コレクションの成り立ち」を開催(参加者 69 名)。この講演会を皮切りに、15 イベントを実施。

主なイベントは、自然史系では夏の特別展「大昆虫博」(入場者 122,294 名)、ナイトミュージアム(2 回開催、参加者 1,518 名)、昆虫標本作成実演(参加者延べ 240 名)、アンモナイトのレプリカづくり(2 日間計 4 回、参加者 571 名)、国際シーラカンスシンポジウム(参加者延べ 45 名)。

歴史系では北九州市の夏祭りをテーマに小倉祇園太鼓の実演と体験(参加者延べ 100 名)、戸畑祇園大山笠行事のお囃子実演と展示解説(参加者延べ 80 名)などを実施した。

第 2 弾では、11 月 3 日(金・祝)の開館記念日に、開館記念日/旧八幡市制百年記念特別講演会として「八幡とともに 80 年—銘菓「八幡饅頭」の鶴屋社長原田隆好さんに聴く—」を開催(参加者 48 名)。開館記念日から 3 日間(11 月 3・4・5 日)は先着 500 名様に 15 周年記念オリジナルノート(非売品)をプレゼント配布した。その他イベントとして、歴史系では、秋の特別展「最後の戦国武将 小倉藩主 小笠原忠真」展(入場者 11,436 人)、特別展ギャラリートーク(参加者延べ 270 名)、菊地裕介ピアノコンサート(参加者 198 名)、講演会「小笠原忠真とその時代」(参加者 129 名)、ハロウィン・ナイトミュージアム(参加者 274 名)、自然史系では、冬の特別展「アクア・キングダム—スピノサウルスと水に還ったどうぶつたち—」(入場者:37,227 人)など、12 イベントを実施した。

(安永あや)



15 周年記念オリジナルデザインロゴとエンブレム



7 月 14 日 開館 15 周年記念講演会



11 月 3 日 開館記念日/八幡市制百年記念特別講演会

(4) 博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業

博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業は、博物館の国内外のネットワークを活用し、単独の博物館ではなし得ない新たな取り組みを広め、日本が誇る貴重な未来へのレガシーを継承・発信し、博物館の振興を図ることを目的とし、文部科学省生涯学習局が実施委託の公募を開始した事業である。

平成 28 年度に引き続き、本公募に対し、兵庫県立人と自然の博物館が事業推進担当館となり北海道博物館、栃木県立博物館、三重県立博物館、大阪市立自然史博物館、橿原市昆虫館および当館による実行委員会で、課題「酒蔵を舞台に地域と演出する日本酒の自然史 -実験展示を通じた博物館ネットワーク推進-」を申請し、採択された。

本課題に係る事業として、3 回の実行委員会を実施するとともに、平成 30 年 1 月 13 日から 1 月 28 日に、「日本酒の自然誌 Where culture meets nature」と題した実験展示を、兵庫県伊丹市の“みなのもえ文化の郷（旧岡田家住宅（店舗・酒蔵）、旧石橋家住宅）”において実施した。

本展示会は、日本酒づくりを育んだ自然のめぐみを、多様な分類群に渡る実物資料を用いて、博物館外で如何に伝えることができるかを実験したもので、テーマの設定の仕方や資料の見せ方などに関し、効果や課題を抽出することができた。

平成 30 年 1 月 27 日には、東りいたみホール（伊丹市）において、ユニークメニューを活用した博物館活動と地域の魅力発信技法に関する公開講習会を実施した。また、平成 30 年 2 月 21 日には、栃木県立博物館において、「博物館の展示解説の多言語化〜どうやってる？これからどうしよう？」と題した多言語化に係る IT 技術やパンフレットデザイン等に関するワークショップを実施した。

(真鍋 徹、蓑島悠介)



展示風景（日本酒のラベルとそのモデルとなった生物）



展示風景（日本酒に適した水ができる理由）

(5) 日本古生物学会 2017 年年会 (共催)

期 間：平成 29 年 6 月 9 日 (金) ～平成 29 年 6 月 11 日 (日)

会 場：北九州市立自然史・歴史博物館

主 催：日本古生物学会

共 催：北九州市立自然史・歴史博物館

協 賛：北九州市、(公財) 北九州観光コンベンション協会

概 要

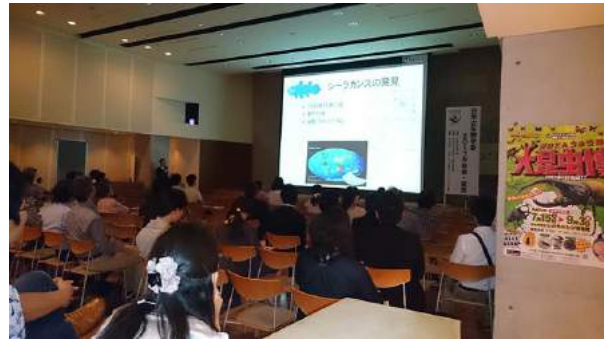
日本古生物学会の 2017 年年会を当館との共催で、2017 年 6 月 9 日 (金) から 11 日 (日) に渡って当館のガイド館・ギャラリー館・講座室等を会場に開催した。開催にあたっては公益財団法人北九州観光コンベンション協会からの協賛をいただいた。

3 日間の開催を通して全体で 284 名の参加があり、口頭発表 64 件・ポスター発表 45 件の他、総会・懇親会・シンポジウム・特別講演・各種小集会・普及講演会が行われ、各会場では発表や質疑応答など活発な議論がなされた。またシンポジウムは「魚類化石研究の現状と可能性」をテーマに藪本学芸員をコンビナーとして実施し、11 日 (日) の午後に開催された一般の来館者も参加可能な普及講演会も、藪本学芸員によるシーラカンスをテーマとした講演で多くの参加者で賑わった。

(大橋智之)



ポスター発表の様子



普及講演会の様子

1 2. 教育普及活動

(1) 博物館セカンドスクール事業

博物館が第2の学校（教室）として、子どもたちの来館機会を創出し、新しい発見や感動を胸に理科・社会科への学習意欲を持たせる仕組みづくりを行うため、

- (1) 博物館への誘致事業
- (2) 学校教育支援事業
- (3) 家庭教育支援事業

の3つの柱をかかげ、学校教育現場と博物館との結びつきを強めるための事業。

1) 博物館への誘致事業

○ 博物館への誘致活動

修学旅行等の団体客を誘致するため学校へのガイドンスDVD、パンフレット類の送付及び旅行会社へのPR活動

○ 情報発信による博物館利用の案内

- ・情報誌「いのちのたび」を月1回、保育所（園）・幼稚園向けの情報誌を年2回発行
- ・博物館ホームページ、市政だより等の活用

2) 学校教育支援事業

○ 博物館活用資料の整備

各種ガイドブック、ワークシート、スタンプラリーシート、体験活動プログラム資料など

○ 体験学習プログラムの提供

化石レプリカづくり、ペットボトル顕微鏡づくり、化石発掘体験、勾玉づくり

○ 授業づくり支援

「博物館利用の手引き」の紹介、小学校への出前授業、「昔の道具調べ」「土地のつくりと変化」等の館内授業、ディスカバリーボックスの貸し出し等

○ 職場体験学習、教員等社会体験研修の受け入れ等

○ 環境アクティブ・ラーニング（北九州市教育委員会主催の市内小学校4年生を対象とした体験活動）

○ その他

北九州市環境リサーチ隊会場（北九州市教育委員会主催）等

3) 家庭教育支援事業

○ いのちのたび子ども教室（20名を定員として前期8回、後期8回で学芸員による講話や体験学習を実施）

○ 東田サマースクール（夏休み期間中に、北九州イノベーションギャラリー（KIGS）、環境ミュージアムと合同で全3期の体験学習を実施）

【平成29年度 学校関係利用状況】

○ 学校関係誘致実績

団体	保・幼	小学校	中学校	高等学校	特別支援	合計
団体数	258	837	118	48	58	1,319
人数	14,810	58,981	9,174	3,746	1,235	87,946

○ 学校教育支援事業実績

体験プログラム	レプリカ	顕微鏡	化石発掘	勾玉	合計
団体数	34	5	26	13	78
人数	898	134	1,155	388	2,575

授業	昔の道具調べ	土地のつくり	環境アクティブ・ラーニング	合計
学校数	26	14	28	68
人数	1,332	871	1,330	3,533

○ 家庭教育支援事業実績

講座名	いのちのたび子ども教室	東田サマースクール
回数	前期8回 後期8回	3期
参加者数	各回20名のべ320名	各期25名 計75名

(2) 普及講座

1) 自然史系の普及講座

自然史に親しみ、理解を深めてもらうため各学芸員の専門分野の講座を26回企画した(野外観察会:6回、室内講座:9回、たいけん教室:7回、夏休み教室:3回、船内見学会:1回)。

種別	講座名	開催日	曜日	人数
野外観察会	バードウィーク市民探鳥会	平成29年5月14日	日	37
野外観察会	ジオ・ハイキング「探検!化石の島:藍島」	平成29年6月4日	日	16
野外観察会	ジオ・ハイキング「生きた化石、カプトガニの不思議」	平成29年7月29日	土	22
野外観察会	ジオ・ハイキング「恐竜時代の大地!皿倉山ウォーキング」	平成29年10月8日	日	25
野外観察会	カワセミを見る!	平成30年1月21日	日	12
野外観察会	ズグロカモメを見る!	平成30年3月4日	日	3
室内講座	恐竜教室「アースモールの恐竜たち・その1」	平成29年4月22日	土	43
室内講座	恐竜教室「アースモールの恐竜たち・その2」	平成29年5月20日	土	16
室内講座	昆虫標本作製教室	平成29年6月4日	日	40
室内講座	顕微鏡で見よう!美しい鉱物	平成29年6月18日	日	72
室内講座	植物細密画を描いてみよう!	平成29年7月9日	日	25
室内講座	【秋の恐竜学】恐竜をもっと楽しく見るホネの話	平成29年10月22日	日	25
室内講座	植物細密画を描いてみよう!	平成29年10月29日	日	18
室内講座	恐竜すす払い	平成29年12月26日	火	13
室内講座	小さな化石にふれてみよう!	平成30年2月11日	日	40
たいけん教室	ジオ体験「ジオの恵み:合馬のたけのこ掘り」	平成29年4月9日	日	28
たいけん教室	ジオハイキング「平尾台を楽しむスペシャル体験!」	平成29年5月14日	日	19
たいけん教室	ジオハイキング「生命の進化をたどるミニ・ジオハイキング」	平成29年9月24日	日	18
たいけん教室	ジオツアー「学芸員とめぐる館内ジオツアー」	平成29年11月5日	日	12
たいけん教室	自然史工作教室 ムササビとタネのグライダー	平成29年11月23日	木	9
たいけん教室	鳥はなぜ飛べる?鳥だこを作って考えよう!	平成29年12月10日	日	30
たいけん教室	いろいろなかたちのアンモナイトにさわってみよう!	平成30年2月25日	日	23
夏休み教室	権現山の昆虫観察会	平成29年7月22日	土	25
夏休み教室	海岸生物の観察	平成29年7月24日	月	46
夏休み教室	ジオハイキング「化石と地質のたのしみ方」	平成29年8月20日	日	24
船内見学会	広島大学生物生産学部附属練習船 豊潮丸 一般公開	平成29年8月2日	水	18

合計 659

2) 歴史系の普及講座

歴史や文化にかかわる講座を実施し、理解につとめた。連続講座では、より深い学習を求める方々に向けた講座を行った。

種別	講座名	開催日	曜日	人数
室内講座	近世文書読み方入門講座全12回	平成29年4月~平成30年3月	第2水	42
歴史探訪講座	北九州の城跡を歩く①帆柱山城跡	平成29年4月23日	日	27
たいけん講座	若武者に変身!	平成29年5月5日	金・祝	58
室内講座	ミニ掛軸を作ろう	平成29年7月23日	日	15
歴史探訪講座	北九州の城跡を歩く②小倉城跡	平成29年11月12日	日	25

合計 167

3) 自然史・歴史合同の普及講座

「いのたび自然塾」と称して、自然史課・歴史課共同で自然学習園などにおいて自然の恵みと人々の歴史を考えるイベントを行った。

種別	講座名	開催日	曜日	人数
いのたび自然塾	藍のたたき染めでオリジナルエコバッグを作ろう!	平成29年7月28日	金	28
いのたび自然塾	藍と塩で染めるシルクのハンカチ	平成29年8月5日	土	17
いのたび自然塾	どんぐり祭り!たべよう・あそぼう	平成29年11月11日	土	22

合計 67

4) 特別展等の普及講座等

特別展に関連した講座、開館 15 周年記念事業等として下記のとおり開催した。

種別	講座名	開催日	曜日	人数
関連イベント	(春の特別展) ナイトミュージアム	平成 29 年 4 月 1 日	土	576
関連イベント	(春の特別展) たねのグライダーづくり	平成 29 年 4 月 2 日, 4 月 9 日, 4 月 22 日, 4 月 30 日, 5 月 7 日, 5 月 14 日	土, 日	360
関連イベント	(春の特別展) ドジョウ博士講演会	平成 29 年 4 月 16 日	日	150
関連イベント	(春の特別展) びわこ博士講演会	平成 29 年 4 月 23 日	日	70
関連イベント	(春の特別展) 魚部員ドジョウ語り	平成 29 年 5 月 3 日～5 月 5 日	水～金	計数 せず
開館 15 周年 記念イベント	記念講演会「いのちのたび博物館の昆虫コレクションの成 り立ち」	平成 29 年 7 月 14 日	金	69
開館 15 周年 記念イベント	(夏の特別展) 昆虫標本作成実演	平成 29 年 7 月 20 日～会期中毎週木曜日	木	240
開館 15 周年 記念イベント	(夏の特別展) ナイトミュージアム	平成 29 年 7 月 21 日, 8 月 10 日	金, 木	1518
開館 15 周年 記念イベント	記念イベント「アンモナイトレプリカづくり」	平成 29 年 7 月 29 日, 8 月 5 日	土	571
開館 15 周年 記念イベント	記念イベント「石のふしぎ」	平成 29 年 8 月 5 日, 8 月 26 日	土	140
開館 15 周年 記念イベント	記念イベント「アンモナイトにさわってみよう」	平成 29 年 8 月 6 日, 8 月 27 日	日	80
開館 15 周年 記念イベント	「シーラカンスから海を学ぶ 国際シーラカンスシンポ ジウム」	平成 29 年 8 月 9 日～11 日	水～金	45
開館 15 周年 記念イベント	「シーラカンスから学ぶ大西洋のおいたち」	平成 29 年 8 月 9 日	水	9
開館 15 周年 記念イベント	「シーラカンスから学ぶインド洋のおいたち」	平成 29 年 8 月 11 日	金・祝	13
開館 15 周年 記念イベント	(夏の特別展) 昆虫展ギャラリートーク	平成 29 年 8 月 18 日, 8 月 25 日, 9 月 1 日	金	約180
開館 15 周年 記念イベント	「小倉祇園太鼓実演&体験」	平成 29 年 8 月 19 日	土	100
開館 15 周年 記念イベント	「戸畑祇園大山笠行事のお囃子実演と展示解説」	平成 29 年 8 月 27 日	日	80
開館 15 周年 記念イベント	「博物館が何倍も楽しくなるスマホの写真教室」	平成 29 年 9 月 2 日	土	9
開館 15 周年 記念イベント	(秋の特別展) ギャラリートーク「小笠原忠真展徹底解剖」	平成 29 年 10 月 8 日～ 毎週日曜日	日	270
開館 15 周年 記念イベント	(秋の特別展) 菊池裕介ピアノコンサート～博物館に響く ペーゼンドルファーの華麗な音色～	平成 29 年 10 月 9 日	月・祝	198
開館 15 周年 記念イベント	(秋の特別展) 特別展関連講演会「小笠原忠真とその時代」	平成 29 年 10 月 14 日	土	129
開館 15 周年 記念イベント	(秋の特別展) ハロウィン☆ナイトミュージアム	平成 29 年 10 月 28 日	土	274
開館 15 周年 記念イベント	開館記念日/旧八幡市制百年記念特別講演会 「八幡とともに 80 年-銘菓「八幡饅頭」の鶴屋社長原田隆 好さんに聴く-」	平成 29 年 11 月 3 日	金・祝	48
開館 15 周年 記念イベント	(秋の特別展) 君もあの戦国武将になろう-変わり兜着 用体験-	平成 29 年 11 月 4 日, 11 月 5 日	土, 日	124
開館 15 周年 記念イベント	(秋の特別展) 小笠原家茶道古流未得会による御抹茶の 振る舞い	平成 29 年 11 月 19 日	日	184
開館 15 周年 記念イベント	(秋の特別展) 福岡県文化財指定記念講演会 「国境の城 黒崎城」	平成 29 年 11 月 23 日	木・祝	300
開館 15 周年 記念イベント	記念イベント「小倉織のストラップづくり」	平成 29 年 11 月 25 日, 26 日	土, 日	47
開館 15 周年 記念イベント	(冬の特別展) スピノサウルス設営公開	平成 29 年 12 月 17 日	日	11
開館 15 周年 記念イベント	「博物館が何倍も楽しくなるスマホの写真教室 vol.2」	平成 29 年 12 月 17 日	日	8
開館 15 周年 記念イベント	(冬の特別展) 「シーラカンスが語る海のおいたち」	平成 29 年 12 月 24 日	日	38
開館 15 周年 記念イベント	(冬の特別展) ナイトミュージアム	平成 30 年 1 月 7 日	日	615
開館 15 周年 記念イベント	(冬の特別展) 「くじらは海のほ乳類」	平成 30 年 2 月 11 日	日	60
関連イベント	(春の特別展) ワークショップ「タッチ・ザ・ポーン」 ～さわって実感! ほねのいろいろ～	平成 30 年 3 月 17 日, 3 月 24 日	土	80
関連イベント	(春の特別展) ナイトミュージアム	平成 30 年 3 月 25 日, 3 月 31 日	日, 土	1,012

合計(約) 7,608

(3) 博物館実習

1) 自然史課博物館実習

学芸員課程の学生を受け入れ、各学芸員が数講座ずつ担当した。5日間と10日間を学生が選択。

*1期：8月8日(火)～8月19日(土)、日曜・月曜休講の10日間

・人数：9名(うち5名は5日間)

・所属大学：北九州市立大学1名、西南学院大学1名、佐賀大学1名、琉球大学1名、立命館大学2名、京都造形芸術大学1名、帝京大学1名、龍谷大学1名

*2期：8月29日(火)～9月9日(土)、日曜・月曜休講の10日間

・人数：7名(うち2名は5日間)

・所属大学：福岡教育大学1名、宮崎大学1名、南九州大学1名、琉球大学1名、高知大学1名、東海大学1名、新潟大学1名

2) 歴史課博物館実習

学芸員課程の学生を受け入れ、各学芸員が数講座ずつ担当した。

・期間：8月22日(火)～8月26日(土)の5日間

・人数：8名

・所属大学：北九州市立大学3名、九州産業大学1名、福岡教育大学1名、熊本大学1名、安田女子大学1名、神戸女子大学1名

(4) 職場体験・職員研修受け入れ

教育機関等からの依頼を受け、生徒・学生・教職員などが研修生として働くことで、将来に向けての就業体験や社会人として広く見識を深めることが出来るように研修の企画・運営を行った。

1) 職場体験受け入れ

・鎮西敬愛学園敬愛中学校(平成29年7月25、26日 2名)

・北九州市立中央中学校(平成29年10月12、13日 3名)

・北九州市立枝光台中学校(平成29年12月6、7日 3名)

・キャリアサポートクラブ(平成29年12月2日 12名)

2) 職員等研修受け入れ

・福岡県立行橋高等学校(平成29年8月2日～4日 教諭2名)

・福岡県立八幡高等学校(平成29年8月2日～4日 教諭1名)

・福岡県立小倉高等学校(平成29年8月2日～4日 教諭1名)

・福岡県立直方高等学校(平成29年8月2日～4日 教諭1名)

・福岡県立折尾高等学校(平成29年8月2日～4日 教諭2名)

・福岡県立北筑高等学校(平成29年8月2日～4日 教諭2名)

・福岡県立古賀特別支援学校(平成29年8月2日～4日 教諭1名)

・文部科学省高等教育局(平成29年11月21日 1名)

・カンボジア中学校教員(平成29年9月13日 4名)

・大洋州混成初中等理科教育コース(平成29年11月19日 24名)

3) プレ・インターンシップ受け入れ

・福岡県立大学(平成29年9月12日～16日 4名)

(5) 館内での講話等

依頼を受けて、生徒・学生・一般の方へ、各学芸員の専門分野の講話や解説を行った。

・対応件数計：66回、約1,210名に対応

・主な依頼元：高等学校や大学等教育機関(市内、県内外)、市他部局、JICA等

(6) 館外での講演等

依頼を受けた講演会等で児童や生徒、一般の方々へ、各学芸員の専門分野の講演等を行った。

・対応件数計：12回、約450名に対応

・主な講演先：小・中・高・大学等教育機関(市内、県内外)、博物館、各自治体、公共施設等

(7) 公務による大学での講義

- ・北九州市立大学
 - 「自然史へのいざない」自然史課学芸員全員 11 名 11 コマ
 - 「地球環境システム論」真鍋 徹、武石全慈 3 コマ
 - 「地域の歴史と文化」守友 隆 1 コマ
- ・九州大学大学院
 - 「先端学際科学」森 康 1 コマ
- ・岐阜大学
 - 「博物館展示論」真鍋 徹 15 コマ (集中講義)
- ・九州国際大学
 - 「自然科学概論」太田泰弘 15 コマ

(8) 団体・委員会への就任依頼

- ・真鍋 徹
 - ・北九州学術・研究都市貴重種対策検討委員会植物部会員 (北九州市)
 - ・福岡県環境影響評価専門委員 (福岡県)
 - ・小石原川ダム県環境保全対策検討委員会委員 (水資源機構)
 - ・小石原川ダム県環境保全対策検討委員会委員クマタカ検討部会委員 (水資源機構)
 - ・ナショナル・バイオリソース・プロジェクトにおける「情報発信体制の整備とプロジェクトの総合的推進」事業協力者 (国立科学博物館)
 - ・自然史レガシー継承・発信実行委員会委員 (自然史レガシー継承・発信実行委員会)
 - ・日本景観生態学会監事 (日本景観生態学会)
 - ・日本景観生態学会編集委員 (日本景観生態学会)
- ・下村通誉
 - ・第 10 期北九州市環境影響評価審査会委員 (北九州市)
 - ・新西部水処理センター環境モニタリング委員会委員 (福岡市)
 - ・博多湾環境保全計画推進委員会委員 (福岡市)
 - ・「標本救済ネット」ケースワーカー (西日本自然史系博物館ネットワーク)
 - ・日本甲殻類学会学会誌 Cancer 編集委員長 (日本甲殻類学会)
 - ・日本甲殻類学会学会賞選考委員長 (日本甲殻類学会)
 - ・日本動物分類学会評議委員 (日本動物分類学会)
- ・籾本美孝
 - ・北九州学術・研究都市貴重種対策検討委員会タナゴ部会員 (北九州市)
 - ・相割川水系流域協議会委員 (北九州市土整備事務所)
 - ・山口県立山口博物館協議会委員 (山口県)
 - ・福島県・シーラカンス委員会国内委員 (ふくしま海洋科学館)
 - ・石川県白山市手取層群化石調査団員 (白山市)
 - ・金山川水系流域協議会委員 (北九州市土整備事務所)
 - ・日本古生物学会 2017 年年会・総会開催実行委員会委員長 (日本古生物学会)
- ・馬場 稔
 - ・北九州市人と動物の共生社会推進懇話会委員 (北九州市)
 - ・周南市ツル保護協議会委員 (周南市教育委員会)
 - ・福岡県環境審議会委員 (福岡県)
 - ・大分県特別天然記念物カモシカ食害対策事業調査指導委員 (大分県教育委員会)
 - ・大分県天然記念物 (動・植物) 緊急調査指導委員 (大分県)
- ・武石全慈
 - ・第 10 期北九州市環境影響評価審査会委員 (北九州市)
 - ・北九州学術・研究都市貴重種対策検討委員会会員 (北九州市)
 - ・周南市ツル保護協議会委員 (周南市)
 - ・福岡県環境影響評価専門委員 (福岡県)

- ・遠賀川流域生態系ネットワーク検討委員会委員（九州地方整備局）
- ・日本鳥学会鳥類保護委員会委員（日本鳥学会）
- ・太田泰弘
 - ・日本洞窟学会事務局長（日本洞窟学会）
 - ・日本洞窟学会評議員（日本洞窟学会）
 - ・日本洞窟学会洞窟学雑誌編集委員（日本洞窟学会）
 - ・日本洞窟学会ケービングジャーナル編集委員（日本洞窟学会）
 - ・日本地質学会代議員（日本地質学会）
 - ・日本地質学会古生物部会幹事・世話人（日本地質学会）
 - ・日本古生物学会 2017 年年会・総会開催実行委員会委員
 - ・福岡県環境教育学会運営委員（福岡県環境教育学会）
 - ・日本古生物学会 2017 年年会・総会開催実行委員会委員（日本古生物学会）
- ・森 康
 - ・日本鉱物科学会博物館委員会委員（日本鉱物学会）
- ・御前明洋
 - ・県の石出版プロジェクトチーム「福岡県の石」まとめ役（日本地質学会）
 - ・日本古生物学会 2017 年年会・総会開催実行委員会委員（日本古生物学会）
- ・大橋智之
 - ・日本古生物学会将来計画委員会委員（日本古生物学会）
 - ・日本古生物学会 2017 年年会・総会開催実行委員会委員（日本古生物学会）
 - ・石川県白山市手取層群化石調査団員（白山市）
- ・蓑島悠介
 - ・「標本救済ネット」ケースワーカー（西日本自然史系博物館ネットワーク）
 - ・福岡県地域社会教育 ICT 活用連携協議会委員（海の中道海洋生態科学館）
 - ・自然史レガシー継承・発信実行委員会委員（自然史レガシー継承・発信実行委員会）
 - ・日本甲虫学会評議員（日本甲虫学会）
 - ・日本甲虫学会和文誌編集委員（日本甲虫学会）
- ・江頭幸士郎
 - ・北九州学術・研究都市貴重種対策検討委員会部会員（北九州市）
 - ・静岡県自然環境保護調査委員会委員（静岡県）
 - ・日本爬虫両棲類学会英文誌編集委員（日本爬虫両棲類学会）
 - ・日本爬虫両棲類学会第 56 回熊本大会実行委員会委員（日本爬虫両棲類学会）
 - ・九州両生爬虫類研究会運営委員（九州両生爬虫類研究会）
- ・松井和幸
 - ・九州国立博物館買取評価員（九州国立博物館）
- ・上野晶子
 - ・戸畑祇園大山笠振興会保存委員会委員（北九州市）

1 3. 博物館ボランティア（シーダー）の活動

(1) 人数 (平成 29 年 4 月 1 日現在)

登録人数 66 名 [男性 26 名 女性 40 名]
 10 代 (2 名) 20 代 (1 名) 30 代 (1 名) 40 代 (1 名)
 50 代 (8 名) 60 代 (24 名) 70 代 (23 名) 80 代 (6 名)

(2) 活動実績

延べ日数 355 日
 延べ活動回数 3,622 回 (平均 54.9 回/人)

(3) 活動内容

[展示案内グループ]

来館者に対して館内の施設案内、常設展・特別展の展示解説、スポット解説を行う。

[講座補助グループ]

体験プログラムの補助、学芸員の普及講座の補助、子ども教室・東田サマースクールおよび MT が行う授業（環境アクティブ・ラーニング、昔の道具調べ）の補助を行う。

[演示グループ]

子ども向けの恐竜や生き物の「折り紙」、九州の民話を抜粋した「手作り紙芝居」などの読み聞かせ、お手玉・コマ回しなどの「昔あそび」、糸紡ぎから機織りまでを体験する「小倉織」などの実演を行う。

(4) 研修

およそ毎月 1 回の学芸員との「シーダーゼミ」を通して、シーダーとしての資質の向上に努めた。

実施日	人数	講 話 題	話 者	
第 142 回	5 月 18 日(木)	29 名	両生類～水辺の隣人たち～	江頭幸士郎
第 143 回	6 月 28 日(水)	29 名	ゾウさんとキリンさん 堀川の歴史	馬場 稔 日比野利信
第 144 回	7 月 15 日(土)	23 名	隕石と隕石関連物質 博物館の屏風	森 康 富岡 優子
臨時	7 月 19 日(水)	19 名	特別展「大昆虫博」	養島 悠介
第 145 回	8 月 22 日(火)	31 名	エンバイラマ館入口古生代のジオラマについて 学校団体のワークシートを利用した案内について	太田 泰弘 小林 孝幸
第 146 回	9 月 20 日(水)	30 名	北九州市の林 皿倉山の戦国期城郭	真鍋 徹 中西 義昌
第 147 回	10 月 25 日(水)	18 名	多様性館の昆虫展示 曽根干潟は日本で第一位クラスのカブトガニの産卵地	養島 悠介 武石 全慈
第 148 回	11 月 16 日(木)	17 名	アースモールの触れる化石-脊椎動物化石編- 『土器』の世界～須恵器って何だろう～	大橋 智之 原田 智也
第 149 回	12 月 13 日(水)	27 名	邪馬台国の時代の鉄 ヒマラヤの地質と風景	松井 和幸 森 康
臨時	1 月 5 日(金)	30 名	特別展「アクア・キングダム」	大橋 智之
第 150 回	1 月 16 日(火)	24 名	①オオサンショウウオとその雑種②コガタブチサンショウウオとベッコウサンショウウオ 小笠原忠真	江頭幸士郎 守友 隆
第 151 回	2 月 14 日(水)	27 名	化石のでき方 北九州市の幕末再考	御前 明洋 日比野利信
第 152 回	3 月 13 日(火)	34 名	博物館の展示と 40 年にわたる魚の研究 博物館と昆虫学	藪本 美孝 上田恭一郎

1 4. 自然史友の会の活動

目 的

博物館とともに楽しく自然を研究し、正しく自然を理解し、自然史学の普及発展に寄与し、会員相互の親睦を図ることを目的とする（自然史友の会規約第2条）。

会員数

629名（平成30年3月31日現在）

役員等

会長：小林 繁、副会長：原田隆好・佐藤政弘、幹事長：新海義治、事業担当幹事7名、出版担当幹事10名、庶務会計担当幹事4名、会計監査2名、評議員45名、顧問12名

年会費

正会員：大人 3,000円、小・中・高生 1,000円、家族会員 4,000円。賛助会員：10,000円

活動内容

- (1) 会誌「わたしたちの自然史」の発行（B5版、総カラー24ページ）
第140号（10月30日発行）：4件の報告
第141号（11月1日発行）：総会・研究発表会要旨含む8件の報告
第142号（1月15日発行）：4件の報告
第143号（3月1日発行）：4件の報告
- (2) 研究部会の活動：例会の実施
地質鉱物（第164～169回例会）、化石（第354～357回例会）、植物（第157～161回例会）、昆虫（12回の例会）、水生動物（休止中）、両生・爬虫類（第211～218回例会）、鳥類（第127回例会）
- (3) 友の会野外観察会の実施
9月23日（土）に高遠山（北九州市若松区）にて、参加者23名
- (4) 博物館との共催の野外観察会の実施
野外観察会・夏休み教室を9回実施
- (5) 市民向け室内講座の実施
「植物細密画を描いてみよう！」
第1回 7月9日（日）13:00～16:30、博物館実習室にて、参加者25名
第2回 10月29日（日）13:00～16:30、博物館実習室にて、参加者18名
- (6) 会員向け室内講座の実施
「カエルと共に暮らそう」
8月6日（日）13:00～16:30、博物館実習室にて、参加者21名
- (7) 研究発表会の実施
4月29日（土・祝）、博物館にて9件の発表。参加77名
- (8) 会議等の実施
総会（4月29日）、親睦会（4月29日）、評議員会（3月21日）、三役・各担当幹事会代表会（3回）、出版担当幹事会（2回）、事業担当幹事会（2回）、庶務会計担当幹事会（1回）を実施

15. 歴史友の会の活動

目的

本会は、考古学など歴史に関する学習を通じて自己啓発と会員相互の親睦を図り、古代史への理解と認識を高めるとともに、博物館への協力によって北九州地域の文化の向上に寄与することを目的とする（歴史友の会会則第2条）。

会員数

157名（平成30年3月31日現在）

役員等

会長：永尾正剛、顧問：野口委有、副会長：岩井勝治・渡辺善夫、会計3名、会計監査2名、会員管理1名、講座運営担当10名、遺跡見学運営担当10名、広報・会誌編集6名

年会費

正会員：5,000円 賛助会員：10,000円以上 臨時会員：実費（資料代）800円

活動内容（平成29年度）

- (1) 会誌「友の会だより」の発行（A4版、総カラー6ページ、年3回）
- (2) 講演会 年10回開催、参加者総計 915名

日時	講演タイトル	講師	人数
4月15日（土）	糟屋官衙遺跡群 阿恵遺跡の調査 —成果と課題—	粕屋町教育委員会 西垣 彰博 先生 九州大学大学院教授 坂上 康俊 先生	94
5月13日（土）	六郷満山について	別府大学教授 飯沼 賢司 先生	105
7月8日（土）	戦国・織豊期の女性像	九州大学大学院教授 福田 千鶴 先生	83
8月5日（土）	熊本城復旧計画の課題	熊本城調査研究センター副所長 網田 龍生 先生	70
9月16日（土）	地獄絵の楽しみ	愛知教育大学教授 鷹巣 純 先生	81
10月14日（土）	小笠原忠真とその時代	岡山大学准教授 三宅 正浩 先生	129
12月2日（土）	昭和史再考—政治と軍事—	北九州市立大学教授 小林 道彦 先生	70
1月13日（土）	装飾古墳にみる有力首長層の動向	北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室 宇野 慎敏 先生	97
2月10日（土）	シルクロード・グローバル社会の 先駆けを訪れる	東亜大学教授 黄 曉芬 先生	77
3月10日（土）	甲を着た古墳人—金井東裏遺跡—	九州大学大学院講師 舟橋 京子 先生	109

- (3) 史跡めぐり 年4回開催、参加者総計 153名

日時	場所	人数
5月20日（土）～5月21日（日）	史跡めぐり旅行（宮崎県）	20
6月11日（日）	新規会員歓迎・史跡めぐりバスハイク（福岡市周辺）	45
9月29日（金）～10月1日（日）	史跡めぐり旅行（滋賀県）	42
11月12日（日）	史跡めぐりバスハイク（大分県・国東）	46

16. 資料の収集保存状況

(1) 自然史課

1) 平成 29 年度資料登録状況

平成 29 年度の自然史資料登録点数は以下のとおりである。

28 年度末累計	29 年度登録数					29 年度末累計
	寄贈	寄託	購入	採集	小計	
生物系 80,264	382	0	413	58	853	81,117
地学系 36,621	1,657	0	1	0	1,658	38,279
合計 116,885	2,039	0	414	58	2,511	119,396

2) 平成 29 年度収集資料の概要

平成 29 年度は、芦屋層群産ヒトデ化石などの無脊椎動物化石 59 点、梅花石置物 2 点、プロトプテ
ルム類と思われる大腿骨化石などの脊椎動物化石 4 点、その他化石類・岩石鉱物類など約 3,200 点、
ゴエモンコシオリエビ等熱水噴出孔生物群集標本 5 点、有明海・八代海産無脊椎動物標本 140 ケース、
沖縄産貝類標本等約 600 点、マレーグマ剥製 1 点、植物さく葉標本 452 点などをご寄贈いただいた。

(2) 歴史課

1) 平成 29 年度資料登録状況

平成 29 年度の歴史資料登録点数は以下のとおりである。

28 年度末累計	29 年度登録数					29 年度末累計
	寄贈	寄託	購入	採集	小計	
歴史系 33,498	13	0	0	0	13	33,511
考古系 43,900	0	0	0	0	0	43,900
合計 77,398	13	0	0	0	13	77,411

2) 平成 29 年度収集資料の概要

平成 29 年度には、3 名の個人の方から資料の寄贈を受けた。具体的には元八幡西区（現在は千葉
県富里市）の方から伊藤博文の書「天道是誠」の扁額 1 点を、八幡東区在住の方から小倉織袴など 2
点を、小倉南区在住の方からお父様の遺品である出征アルバムや刀・脇差など 10 点をそれぞれご寄
贈いただいた。

このほかにも受入・登録を前提として調査・整理を進めている資料が少なからずある。現在整理を
継続して行っており、随時登録を進めて行きたい。

17. 資料の特別観覧状況（自然史・歴史）

	担当課	資料名	目的	所属/団体名	閲覧者	人数	閲覧日
1	自然史	関門層群産脊椎動物化石	関門層群産脊椎動物化石の記載	福岡大学	徳重桂子 田上 響	2	H29. 4～ H30. 3
2	自然史	島根県産ジュラ紀アンモナイト	アンモナイトに関する図鑑作成のための標本調査	東海化石研究会	蜂矢喜一郎	1	H29. 6. 10～ H29. 6. 11
3	自然史	タンポポ属植物さく葉標本	日本産タンポポ属植物の分類学的研究	兵庫県立人と自然の博物館、大阪府立大学	鈴木 武、 西野貴子	2	H29. 7. 25
4	自然史	チュウゴクオオサンショウウオ標本	チュウゴクオオサンショウウオの分類学的研究	京都大学大学院	吉村雅子	1	H29. 7. 28
5	自然史	芦屋層群産二枚貝化石	芦屋層群産二枚貝化石に見られる捕食痕の頻度等調査	名古屋大学博物館	原 巧輔	1	H29. 11. 14 H29. 11. 17
6	自然史	トビケラ類標本	トビケラ類標本の閲覧		勝間信之	1	H29. 12. 22
7	自然史	ガ類乾燥標本	ガ類標本の閲覧		遠藤弘志	1	H30. 1. 20
8	自然史	平尾台産ニホンオオカミ頭骨	日本産オオカミの進化生物学的研究	カタール大学	山口誠之	1	H30. 1. 23～ H30. 1. 25
9	自然史	豊浦層群産植物化石	豊浦層群産植物化石の観察および撮影	北九州市立自然史・歴史博物館自然史友の会	原田隆好	1	H30. 1. 24
10	自然史	ハムシ類乾燥標本	ハムシ類標本の閲覧		末長晴輝	1	H30. 2. 10～ H30. 2. 12
11	自然史	対馬産植物さく葉標本	対馬市における希少野生植物の生育状況評価	対馬市自然共生課	山本武能	1	H30. 3. 22～ H30. 3. 23
12	歴史	濱田源一郎氏寄託資料	H30 年度企画展の調査	北九州市立美術館	重松知美	1	H29. 4. 25
13	歴史	辻田遺跡出土資料	辻田遺跡出土の中期旧石器の調査	京都大学	上峯篤史他	4	H29. 4. 30
14	歴史	辻田遺跡出土資料	辻田遺跡発掘調査資料の比較検討	東北芸術工科大学	長井謙治	1	H29. 5. 7
15	歴史	木造阿弥陀如来坐像（宗光寺所蔵）	目視による確認調査		大森保宗他	2	H29. 5. 12
16	歴史	松本遺跡出土資料	非接触による3D調査	別府大学	下村 智他	5	H29. 7. 22
17	歴史	辻田遺跡出土資料	辻田遺跡発掘調査資料の比較検討	東北芸術工科大学	長井謙治	1	H29. 9. 15
18	歴史	小笠原小笠原関係資料・旧小笠原玲子氏所蔵小笠原文書・廣澤寺所蔵小笠原秀政着用甲冑	企画展に関する史料調査	長野県立歴史館	村石正行	1	H29. 11. 22
19	歴史	笠系大成（小笠原文書 44-47）	資料調査	小笠原流礼法	加藤圭子他	2	H30. 2. 12
20	歴史	香野栄輔小倉織袴	資料調査	甲宗八幡神社	大神良彦他	3	H30. 2. 13
21	歴史	密貿易船打払図 1 鋪、小倉藩領藍島略図 1 鋪	企画展に関する史料調査	九州歴史資料館	岡寺 良	1	H30. 2. 26

18. 資料の貸出状況（自然史・歴史）

	担当課	資料名	点数	貸出先	使用目的	貸出期間
1	自然史	宗像市産哺乳類化石（コリフォドン類）標本	14箱	宮田和周（福井県立恐竜博物館）	新生代における絶滅哺乳類相の研究	H29.4.1～ H30.3.31
2	自然史	宗像石	1	海の道むなかた館	常設展での展示	H29.4.1～ H30.3.31
3	自然史	シヨニサウルス頭骨復元、サウロロフス全身復元骨格レプリカ、マジュンガサウルス全身復元骨格レプリカ、キリン全身骨格	一式	大阪市立自然史博物館	特別展「メガ恐竜展2017-巨大化の謎にせまる-」での展示	H29.7.11～ H29.9.17
4	自然史	ケツアルコアトルス生体復元、ズンガリプテルス全身骨格レプリカ（交連および分離）、ケアラダクティルス類実物化石、プロトプテルム類全身骨格レプリカ	一式	鳥取県立博物館	企画展「つばさの博覧会-巨大翼竜からペンギンまで-」での展示	H29.6.1～ H29.9.10
5	自然史	ブラジル・サンタナ層産ワニ類化石	一式	佐藤たまき（東京学芸大学）	サンタナ層群におけるワニ類の多様性の解明	H29.6.11～ H30.3.31
6	自然史	マンモス牙実物標本	2	九州国立博物館	特別展「世界遺産 ラスコウ展」での展示	H29.6.16～ H29.9.30
7	自然史	ヤシガニ、ゴカクエゾイバラガニ	2	京都大学白浜水族館	企画展示「ヤドカリと貝類 -生態と芸術-」での展示	H29.6.30～ H29.10.10
8	自然史	石炭（福岡県小竹町産）、鉄鉱石（中国湖南省産）、石灰石（山口県美祿市産）	3	北九州イノベーションギャラリー	「明治日本の産業革命遺産～官営八幡製鉄所展示ギャラリー」コーナーへの追加展示	H29.8.1～ H30.3.31
9	自然史	芦屋層産鯨類耳骨化石	1	甲能直樹（国立科学博物館）	鯨類の摂食行動の進化の解明	H29.9.25～ H29.10.31
10	自然史	今林虎男さく葉標本	450	北九州植物友の会	シダ類の分類に係る学習および福岡県産シダ類の分布状況調査	H29.12.5～ H30.3.31
11	自然史	クレナイハガラシャチホコ	2	遠藤弘志（岐阜県揖斐郡池田町）	岐阜県産クレナイハガタシャチホコ標本の再同定	H30.1.20～ H31.1.19
12	自然史	ハムシ科標本（木元コレクション）	19	末長晴輝（岡山県倉敷市）	ハムシ科の分類学的研究	H30.2.12～ H31.2.11
13	自然史	<i>Pinnixa rathbuni</i> , <i>Pinnixa penultipedalis</i>	4	駒井智幸（千葉県立中央博物館）	新生代における絶滅哺乳類相の研究	H30.3.20～ H31.3.19
14	歴史	靱ノ粉池窯跡群資料	一括	安部和城（北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室）	靱ノ池窯跡群資料の整理・研究	H29.6.12～ H29.12.22
15	歴史	冷水遺跡出土土広形銅矛、重留遺跡関係資料（レプリカ・パネル等）、高島遺跡出土土器	21	行橋市歴史資料館	H29年度特別展「邪馬台国時代の豊」での展示	H29.9.28～ H29.12.21
16	歴史	小倉祇園山車（西鍛冶町）	1	八代市立博物館未来の森ミュージアム	秋季特別展「大笠鉾展」での展示	H29.10.10～ H29.12.8
17	歴史	藤成威本小札胴丸具足	1	たつの市立龍野歴史文化資料館	特別展「攝保川流域のサムライ-大名たちの実像-」での展示	H29.11.6～ H29.12.1
18	歴史	豊前小倉住友行 銘長刀 ほか13点	14	北九州まちづくり応援団体株式会社	小倉城特別展「武士の備え-刀剣と装飾・調度の品々-」での展示	H29.12.23～ H30.2.25

19. 画像等資料の貸出状況（自然史・歴史）

	担当課	資料名	点数	貸出先	使用目的	申請日
1	自然史	マウソニア・ラボカティ復元骨格画像	1	講談社	「動く図鑑 MOVE 深海の生き物」（講談社刊）への掲載	H29. 4. 12
2	自然史	シヨニサウルス頭骨復元画像、サウロロプス全身骨格レプリカ画像、マジュンガサウルス全身骨格レプリカ画像、現生キリン全身骨格画像	4	大阪市立自然史博物館	特別展「メガ恐竜展 2017-巨大化の謎にせまる-」のポスター等への利用	H29. 4. 24
3	自然史	マンモス牙実物標本画像	1	九州国立博物館	特別展「世界遺産 ラスコール展」での広報用資料としての利用	H29. 4. 26
4	自然史	スタン全身骨格レプリカ画像	1	成美堂出版	「小学生のかつこいいい！！自由研究」への掲載	H29. 5. 9
5	自然史	島根県産ジュラ紀アンモナイト (<i>Taramelliceris</i>) 画像	1	蜂矢喜一郎（東海化石研究会）	「日本のジュラ紀アンモナイト図鑑（東海化石研究会刊行予定）」への掲載	H29. 6. 3
6	自然史	下関産恐竜足跡化石画像	1	山口県立山口博物館	地学常設展示室での解説パネルに使用	H29. 6. 13
7	自然史	トリケラトプス全身復元骨格レプリカ画像	1	藤原慎一（名古屋大学博物館）	学術雑誌のオンライン PDF への掲載	H29. 6. 15
8	自然史	下関産恐竜足跡化石画像	1	下関市立考古博物館	「発見！恐竜卵化石」におけるパネル展示及びチラシ掲載	H29. 10. 24
9	自然史	恐竜の巣・卵化石（レプリカ）画像、恐竜幼体の孵化（模型）画像、鳥類の卵（実物）画像、爬虫類の卵（実物）画像、へび類剥製標本画像	100	岩国市教育委員会	岩国シロヘビ館企画展「卵から生まれる動物のベビー展」での使用	H29. 11. 7
10	自然史	スピノサウルス全身復元骨格画像	1	株式会社金の星社	「恐竜えほん スピノサウルス」への掲載	H30. 1. 11
11	自然史	カンボデルシエロ隕石	1	ニュートン編集部	「ニュートン」ウェブ版への掲載	H30. 2. 28
12	自然史	ケツアルコアトルス全身復元骨格画像	1	株式会社学研プラス	学研の図鑑 LIVE「古生物」への掲載	H30. 3. 31
13	自然史	魚類化石ドレパナスピス画像	1	豊田ホタルの里ミュージアム	平成 29 年度春季企画展「身近な魚の鱗」の展示パネル及び関連冊子での使用	H30. 3. 31
14	歴史	堀切コレクション 4 点	4	公益財団法人渋沢栄一記念財団	堀切辰一論考「モンベと防空頭巾」の図版への掲載	H29. 4. 20
15	歴史	「笠体系系附録七」所載「豊前中津家中分限帳」（「旧小笠原玲子氏所蔵小笠原文書」47）	1	株式会社ミネルヴァ書房	平山洋著『探求・福沢諭吉』の本文中挿図への掲載	H29. 6. 9
16	歴史	「宗祇馬上図」	1	数研出版株式会社	『プレミアムカラー国語便覧』に掲載	H29. 7. 11
17	歴史	「小笠原忠真画像」	1	(株)テレビマンユニオン	テレビ番組制作	H29. 8. 15
18	歴史	「小笠原忠真画像」「小笠原忠真所用具足」	2	(株)RKB 映画社	テレビ番組制作	H29. 9. 5
19	歴史	「小笠原忠真画像」	1	信濃毎日新聞名古屋支社	信濃毎日新聞記事への掲載	H29. 10. 19
20	歴史	「小笠原忠真画像」	1	北九州ぬか炊き文化振興協会	PR チラシへの掲載	H29. 10. 24
21	歴史	「小笠原忠真画像」	1	明石市立文化博物館	企画展「発掘された明石の歴史」展示図録への掲載	H29. 10. 24
22	歴史	長野城模型写真	2	NHK 鳥取放送局米子支局	ニュース番組内での使用	H29. 11. 1
23	歴史	小倉藩土屋敷絵図（複製）	1	小倉北区役所総務企画課	小倉北区内の史跡説明板（中津口の巨石）での図版への使用	H30. 2. 22
24	歴史	黒田二十四騎図（当館所蔵）画像	1	株式会社碧水社	『週刊ビジュアル戦国王』第 94 号への図版での使用	H30. 3. 27

20. 学芸員研究業績（自然史）

（1）論文など

- Shimomura, M. (2017) A new species of *Aspidophryxus* (Isopoda, Dajidae), ectoparasitic on *Mysidella hoshinoi* (Mysidae) in Japan. *ZooKeys*, 646, 109–118.
- Shimomura, M. and Fujita, Y. (2017) *Halosbaena okinawaensis*, a new species of Thermosbaenacea (Crustacea) from submarine cave on Okinawa Island, Ryukyu Islands, southwestern Japan. *Zootaxa*, 4317, 155–164.
- Shimomura, M. and Fujita, Y. (2017) First description of the female of *Heteromysoides simplex* Hanamura & Kase, 2001 (Mysidacea: Mysidae) collected from a submarine cave on Ie-jima Island, Ryukyu Islands, southwestern Japan. *Proceedings of the Biological Society of Washington*, 130, 75–83.
- Mottaghi, A., Shimomura, M. and Reimer, J. D. (2017) Seasonal Abundance of Sphaeromatidae (Crustacea: Isopoda) from Sandy Beaches in Okinawa-jima Island, Japan. *South Pacific Studies*, 38(1), 23–29.
- Mottaghi, A., Shimomura, M., Boo Wee, H. and Reimer, J. D. (2017) Investigation the effects of disturbed beaches on crustacean biota in Okinawa, Japan. *Regional Studies in Marine Science*, 10, 75–80.
- 下村通蒼・星野 修 (2017) 伊豆大島のアミヤドリムシ科等脚類の一種 *Aspidophryxus izuensis* Shimomura, 2017 の野外観察記録. *Cancer*, 26, 25–30.
- 藤田喜久・下村通蒼・多留聖典・有山啓之・逸見泰久 (2017) 近年国内から発見された希少甲殻類（端脚目，等脚目，十脚目）についての話題. *Cancer*, 26, 65–70.
- 松本健作・森 勝伸・下村通蒼・小野寺光二・南雲洋平 (2017) 河川伏流水に生息する地下水生生物の生息実態とその環境因子に関する研究. *土木学会論文集 B1 (水工学)*, 73(4), 1117–1122
- Micklich, M., Bannikov, A. F. and Yabumoto, Y. (2017) First record of ponyfishes (Perciformes: Leiognathidae) from the Oligocene of the Grube Unterfeld (“Frauenweiler”) clay pit. *Paläontologische Zeitschrift*, June 2017, DOI: 10.1007/s12542-017-0340-1.
- Brito, P. M., Cupello, C., Yabumoto, Y., Hell, J. V., Brunet, M. and Otero, O. (2018) First occurrence of a mawsoniid (Sarcopterygii: Actinistia), *Mawsonia soba* sp. nov., in pre-Aptian Cretaceous deposits from Cameroon. *Cretaceous Research*, 86, 91–96, figs. 1–3.
- Fragoso, L. G. C., Brito, P. and Yabumoto, Y. (2018) *Axelrodichthys araripensis* Maisey (1986) revisited. *Historical Biology*, 2018, <https://doi.org/10.1080/08912963.2018.1454443>.
- 宮田真也・蘆本美孝 (2018) コイ科魚類カワムツ *Nipponocypris temminckii* の骨学的研究. *北九州市立自然史・歴史博物館研究報告 A 類 (自然史)*, 16 号, 5–30.
- 杉野広利・太田泰弘・原賀いずみ・花田秀揮・高橋俊吾・大橋直子・森 三保・加藤久美子・八百屋 さやか・大澤得二・白川正樹・浦田健作・森 ふさ恵・富永重稔・葉山 彰・船井泰乃・宮田 薫 (2018) 活動実績「北九州ジオかるた」の製作開始. *ジオ&バイオ研究会報告書*, 第 7 号, 5–52.
- Miyazaki, K., Mori, Y., Nishiyama, T., Suga, K., and Shigeno, M. (2018) Determination of reaction kinetics using grain size: an application to metamorphic zircon growth., *Terra Nova*, in press.
- Nishiyama, T., Mori, Y., and Shigeno, M. (2017) Jadeitites and associated metasomatic rocks from serpentinite mélanges in the Nishisonogi metamorphic rocks, western Kyushu, Japan: a review. *Journal of Mineralogical and Petrological Sciences*, 112, 197–216.
- 西山忠男・森部陽介・森 康・重野未来・湯口貴史 (2017) 開いた系における変成反応と物質移動の解析：特異値分解法の新しい応用. *地質学雑誌*, 123, 717–731.
- 杉山扶実子・長谷中利昭・安田 敦・外西奈津美・森 康 (2017) 阿蘇 3, 阿蘇 4 間テフラに含まれる鉱物中のメルト包有物. *月刊地球*, 68, 74–79.
- 椎原航介・長谷中利昭・安田 敦・外西奈津美・森 康 (2017) 阿蘇 4 火砕噴火直前に噴火した大峰火山—メルト包有物からみるマグマ供給系の変遷. *月刊地球*, 68, 80–85.
- 川口允孝・長谷中利昭・安田 敦・外西奈津美・森 康 (2017) メルト包有物からみた阿蘇火山における玄武岩質マグマの揮発性成分含有量. *月刊地球*, 68, 86–91.
- Shigeta, Y., Tsutsumi, Y. and Misaki, A. (2017) U–Pb age of the *Didymoceras awajiense* Zone (upper Campanian, Cretaceous) in the Aridagawa area, Wakayama, southwestern Japan. *Bulletin of the National Museum of Nature and Science, Series C, Geology & Paleontology*, 43, 11–18.
- Urano, Y., Tanoue, K., Matsumoto, R., Kawabe, S., Ohashi, T. and Fujiwara, S. (2018) How does the curvature of the upper beak bone reflect the overlying rhinotheca morphology? *Journal of Morphology*, doi.org/10.1002/jmor.20799.
- Fikáček, M., Minoshima, Y. N., Komarek, A., Short, A. E. Z., Huang, D. and Cai, C. (2017) *Cretocrenis*

- burmanicus*, the first Mesozoic amber inclusion of a water scavenger beetle (Coleoptera: Hydrophilidae). *Cretaceous Research*, 77, 49–55.
- Minoshima, Y. N. (2017) A new record of *Coelostoma vitalisi* d'Orchymont from Kyushu Island (Coleoptera, Hydrophilidae). *Elytra, New Series*, 7 (1), 20.
- Minoshima, Y. N. (2017) A new species of *Enochrus* Thomson from Laos (Coleoptera, Hydrophilidae). *Special Bulletin of the Coleopterological Society of Japan*, 1, 61–68.
- Minoshima, Y. N., Iwata, Y., Fikáček, M. and Hayashi, M. (2017) Description of immature stages of *Laccobius* (*Laccobius*) *kunashiricus*, with a key to genera of the Laccobiini based on larval characters (Coleoptera, Hydrophilidae). *Acta Entomologica Musei Nationalis Pragae*, 57 (1), 97–119.
- Takahashi, R., Okuyama, H., Minoshima, Y. N. and Takahashi, J. (2018) Complete mitochondrial DNA sequence of the alien hornet *Vespa velutina* (Insecta: Hymenoptera) invading Kyushu Island, Japan. *Mitochondrial DNA Part B*, 3 (1), 179–181.
- Seidel, M., Minoshima, Y. N., Arriaga-Varela, E. and Fikáček, M. (in press) Breaking a disjunct distribution: a review of the Southern Hemisphere genera *Cylorygmus* and *Relictorygmus* gen. nov. (Hydrophilidae: Cylominae). *Annales Zoologici*.
- Matsui, M., Yeo, S. T., Nishikawa, K., Zainudin, R., Eto, K., and Hamidy, A. (2017) Biological notes on an enigmatic microhylid, *Gastrophrynoideus borneensis* (Anura, Microhylidae). *Raffles Bulletin of Zoology*, 65, 466–473.
- Eto, K., Matsui, M., and Hamidy, A. (2017) First Record of *Leptobranchella juliandringi* (Amphibia, Anura, Megophryidae) from Kalimantan, Indonesia. *Current Herpetology*, 36, 142–147.
- Matsui, M., Eto, K., Nishikawa, K., and Belabut, D.M. (2017) A New *Kalophrynus* (Amphibia, Anura, Microhylidae) from Peninsular Malaysia. *Current Herpetology*, 36, 75–86.
- Matsui, M., Nishikawa, K., Eto, K., and Hossman, M.Y.B. (2017) A New Species of *Pelophryne* from Western Sarawak, Malaysian Borneo (Anura, Bufonidae). *Zoological Science*, 34, 345–350.

(2) 書籍・普及書など

- 布村 昇・下村通蒼 (2017) 日本産等脚目甲殻類の分類(48). *ワラジムシ亜目. フナムシ科②, フナムシ属②. 海洋と生物*, 39(6), 643–646 (これを含む連載 6 回) .
- Okabe, H., Carter, H. R., Takeishi, M., Whitworth, D. L. and Otsuki, K. (2017) Nest monitoring and spotlight survey of Japanese Murrelets in 2012 and 2013 at Eboshijima, Fukuoka Prefecture, Japan. pp. 86–99. Otsuki, K. (ed.), *Status and Monitoring of Rare and Threatened Japanese Crested Murrelet*. Publication of the Marine Bird Restoration Group, Fukushima-shi, Fukushima-ken, Japan, pp. 135.
- 武石全慈・Luke, R. H.・岡部海都・Carter, H. R.・大槻都子・Whitworth, D. L. (2017) 福岡県沖ノ島・小屋島地域でのカンムリウミスズメとヒメクロウミツバメに 対するソングメーターを使用した調査と夜間スポットライトサーベイ. pp. 106–113. Otsuki, K. (ed.), *Status and Monitoring of Rare and Threatened Japanese Crested Murrelet*. Publication of the Marine Bird Restoration Group, Fukushima-shi, Fukushima-ken, Japan, pp. 135.
- 太田泰弘 (2018) 故太田正道の軌跡. *ケイビングジャーナル*, No. 62, 9–15.
- 高橋聡・吉澤和子・中島保寿・武藤 俊・田代貴志・對比地孝亘・御前明洋・永広昌之 (2017) 前期三畳紀の南部北上古陸周辺の海洋環境と生態系進化の解明. *地学雑誌 (地学ニュース)*, 126, N95.

(3) 学会等講演

- 真鍋 徹・御前明洋・中西義昌・富岡優子・須藤朋美・伊東啓太郎 (2017) 景観の変遷を市民に伝える方法. 日本緑化工学会・日本景観生態学会・応用生態工学会 3 学会合同大会. 名古屋大学.
- 西村尚之・立石大貴・真鍋 徹・原登志彦 (2018) 対馬龍良山照葉樹林における 27 年間の樹木群集動態. 第 65 回日本生態学会大会. 札幌コンベンションセンター.
- 下村通蒼・星野 修 (2017) 寄生性等脚類イノチヅナアミヤドリ *Aspidophryxus izuensis* の分類と生活史. 日本動物学会第 53 回大会. 富山県民会館.
- 下村通蒼 (2017) 北九州市曾根干潟から得られたユビナガホンヤドカリ *Pagurus minutus* Hess, 1865 に寄生する *Parathelges enoshimensis* Shiino, 1950 (甲殻亜門: 等脚目). 日本動物分類学会第 50 回大会. 海洋研究開発機構.
- 島野智之・下村通蒼 (2017) 節足動物の特殊環境への適応と進化を探る. 日本動物学会第 53 回大会日本動物分類学会シンポジウム. 富山県民会館.

- 藤田喜久・伊勢優史・水山 克・下村通誉 (2017) 沖縄島宜名真海底鍾乳洞 (通称: 辺戸ドーム) で採集された甲殻類. 沖縄生物学会第 54 回大会. 沖縄県立芸術大学.
- 簗本美孝 (2017) 硬骨魚類化石の研究 -日本の博物館所蔵の主な魚類化石と研究の可能性について. 日本古生物学会 2017 年年会・総会. 北九州市立自然史・歴史博物館.
- 簗本美孝 (2017) シーラカンスの研究 化石から現生まで—白亜紀の絶滅をどのようにして生き延びたのか—. 日本古生物学会 2017 年年会・総会. 北九州市立自然史・歴史博物館.
- Yabumoto, Y., Brito, P. M. and K. Hirose, K. (2017) An Upper Cretaceous ichthyodectiform fish from Kyushu, Japan. The 7th International Meeting on Mesozoic fishes. Mahasarakham University, Thailand.
- Yabumoto, Y., Brito, P. M., Iwata, M. and Abe, Y. (2017) A new coelacanth from Madagascar. 国際シーラカンスシンポジウム“Round-table of Coelacanth Evolution”. 北九州市立自然史・歴史博物館.
- 山城明日香・金城芳典・馬場 稔・河口洋一・山城 考 (2017) ミトコンドリア DNA およびマイクロサテライトの解析によるニホンカモシカ (*Capricornis crispus*) の系統地理学的研究. 日本哺乳類学会 2017 年度大会. 富山大学.
- 岩本俊孝・土肥昭夫・馬場 稔・中園朝子・坂田拓司・安田雅俊・岩切康二 (2017) カモシカの現場に迫る. 2. 九州山地の現場. 日本哺乳類学会 2017 年度大会. 富山大学.
- 太田泰弘・牧野帆乃香・佐野弘好 (2017) Hat Creek (British Columbia, Canada) 地域の Marble Canyon 石灰岩中に見られるフズリナ類の多様性の変化について (予報). 日本地質学会第 124 年学術大会. 愛媛大学・城北キャンパス.
- 牧野帆乃香・佐野弘好・太田泰弘 (2017) カナダ, ブリティッシュコロンビア州南部, Cache Creek Terrane のペルム系 Marble Canyon 石灰岩 (中～上部 Guadalupian) の岩相. 日本地質学会第 124 年学術大会. 愛媛大学・城北キャンパス.
- 佐野弘好・太田泰弘・杵山哲男 (2017) 岐阜県舟伏山東部, 美濃帯のペルム系円原石灰岩. 日本古生物学会 2017 年年会. 北九州市立自然史・歴史博物館.
- 太田泰弘・佐野弘好・杵山哲男 (2017) 岐阜県山県市円原地域で発見された *Parafusulina* 属と *Cancellina* 属が共産する灰白色石灰岩の地質年代について. 日本古生物学会 2017 年年会. 北九州市立自然史・歴史博物館.
- 杵山哲男・佐野弘好・太田泰弘 (2017) 美濃帯のペルム系円原石灰岩からイシサンゴ化石を発見. 日本古生物学会 2017 年年会. 北九州市立自然史・歴史博物館.
- 太田泰弘・佐野弘好・牧野帆乃香 (2017) カナダ, ブリティッシュコロンビア州南部 Cache Creek 村付近の Marble Canyon 石灰岩から産出した *Neoschwagerina* 属について (予報). 日本古生物学会 2017 年年会. 北九州市立自然史・歴史博物館.
- 太田泰弘 (2017) ジオパークと地域活性化 (講演 1). 福岡県環境教育学会第 20 回年会. 九州国際大学.
- 太田泰弘 (2017) コンパクト化時代における自然保護と活用の重要性について. 福岡県環境教育学会第 20 回年会. 九州国際大学.
- 杉野広利・太田泰弘 (2017) 北九州の魅力可視化するジオ&バイオ研究会の活動. 福岡県環境教育学会第 20 回年会. 九州国際大学.
- Mori, Y., Shigeno, M. and Nishiyama, T. (2017) Fluid flow, fluid-rock interaction and slow earthquakes at the forearc mantle corner. JpGU-AGU Joint Meeting 2017. 幕張メッセ.
- Shigeno, M., Mori, Y., Kawamoto, T. and Nishiyama, T. (2017) Major components and salinity of slab-derived fluids: insights from fluid inclusions in jadeitites and jadeite-quartz rocks. JpGU-AGU Joint Meeting 2017. 幕張メッセ.
- Nishiyama, T., Nishi, U., Yoshiasa, A., Ishimaru, S., Terauchi, M., Arai, S., Mori, Y., Shigeno, M. and Ohfuji, H. (2017) Deep subduction and the ultrahigh-pressure metamorphism of a Cretaceous accretionary prism, the Nishisonogi metamorphic rock, western Kyushu, Japan: Finding of diamond-graphite aggregates. JpGU-AGU Joint Meeting 2017. 幕張メッセ.
- Nagaishi, R., Hasenaka, T., Yasuda, A., Hokanishi, N. and Mori, Y. (2017) Chemical composition of minerals and melt inclusions in Kusasenrigahama pumices from Aso volcano, Kyushu, Japan -Comparison with Aso-4-. JpGU-AGU Joint Meeting 2017. 幕張メッセ.
- Kawaguchi, M., Hasenaka, T., Yasuda, A., Hokanishi, N. and Mori, Y. (2017) The injection of high-sulfur basaltic magma into shallower reservoir beneath Aso. JpGU-AGU Joint Meeting 2017. 幕張メッセ.
- Shiihara, K., Hasenaka, T., Yasuda, A., Hokanishi, N. and Mori, Y. (2017) Omine volcano erupted just before

- Aso-4 pyroclastic flow. JpGU-AGU Joint Meeting 2017. 幕張メッセ.
- 森 康・重野未来・西山忠男 (2017) 沈み込み帯メランジュにおける流体移動メカニズムと深部スロ―地震の関連 (予察). 日本地質学会. 愛媛大学.
- Nakajima, Y., Takahashi, S., Sasaki, O., Ehiro, M. and Misaki, A. (2017) A preliminary report on the fossil fish assemblage from the Osawa Formation (Spathian, Lower Triassic) of Northeastern Japan. IGCP 630 Meeting in Japan, (Permian–Triassic Climatic & Environmental Extremes and Biotic Response). Sendai.
- Miyake, Y., Aramaki, M., Tsutsumi, Y., Manabe, M., Misaki, A. and Komatsu, T. (2017) Age of the Upper Cretaceous Himenoura Group on the Koshikishima Islands, Kagoshima, Japan. Fifth International Symposium of IGCP608. Jeju Island, Korea.
- 御前明洋・辻野泰之 (2017) 四国北東部の上部白亜系和泉層群から産出するノストセラス科アンモノイドとその進化的意義. 日本古生物学会 2017 年年会. 北九州市立自然史・歴史博物館.
- 中島保寿・高橋 聡・佐々木 理・永広昌之・御前明洋 (2017) 稲井層群大沢層 (下部三畳系 Olenekian) より発見された硬骨魚類化石群集が示す中生代初期の食物網の複雑性. 日本古生物学会 2017 年年会. 北九州市立自然史・歴史博物館.
- 安藤佑介・御前明洋・猪瀬弘瑛・服部創紀・古野竹志・森木和則・疋田吉識・嶋田智恵子・加藤久佳 (2017) 道北地域の白亜系および新第三系から産出した十脚類化石の追加記録. 日本古生物学会 2017 年年会. 北九州市立自然史・歴史博物館.
- 中西義昌・御前明洋・真鍋 徹 (2017) 山地の歴史的景観を復元する～北九州市帆柱連山の山城遺跡から～. 日本緑化工学会・日本景観生態学会・応用生態工学会 3 学会合同大会. 名古屋大学.
- Ohashi, T. (2017) Well-preserved pelvises of plotopterid birds from the Ashiya Group (Late Oligocene), northern Kyushu, Japan. The 77th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology. Calgary, Canada.
- Ohashi, T., Kimura, Y., Hasegawa, Y., Takahashi, I. and Manabe, M. (2017) Accomplishment report: Specimen rescue project with the Tsunami relief found raised in the 2011 SVP meeting, Las Vegas. The 77th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology. Calgary, Canada.
- Tanoue, K., Ohashi, T., Matsumoto, R., Fujiwara, S., Kawabe, S., Urano, Y., Zhao, Q. and You, H. (2017) Distribution of kerationous beaks in basal ceratopsians from the Lower Cretaceous in China. The 77th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology. Calgary, Canada.
- 宮田和周・岡崎美彦・酒井治孝・富田幸光・大橋智之 (2017) 福岡県宗像市の中期始新世直方層群大焼層の汎菌目コリフォドン科化石 (絶滅草食獣) について. 日本地質学会第 124 年学術大会. 愛媛大学.
- 蓑島悠介 (2017) 日本産コマルガムシ亜属の再検討 (鞘翅目・ガムシ科). 日本甲虫学会第 8 回大会. ふじのくに地球環境史ミュージアム.
- 蓑島悠介・下村通誉・真鍋 徹・上田恭一郎 (2018) 実物資料に内包された知覚効果を引き出す展示手法の開発～昆虫の多様性の知覚化に向けて. 全国科学博物館協議会第 25 回研究発表大会. 福岡市科学館.
- 江頭幸士郎・松井正文・西川完途・アミール=ハミディ (2017) コノハガエル科チビウデナガガエル属の最近の系統分類学的研究. 日本爬虫両棲類学会第 56 回熊本大会. 熊本大学.

(4) 外部資金獲得状況

【日本学術振興会科学研究費助成事業科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金】

- 基盤研究 (B) 実物資料を活用した自然史の新たな展示手法および展示理論の構築. 研究代表者: 上田恭一郎. 研究分担者: 真鍋 徹・下村通誉・御前明洋・大橋智之・蓑島悠介. 2017–2020 年度.
- 基盤研究 (C) 自然・文化景観から人と自然との関わりを現出するための新たな研究手法の構築. 研究代表者: 真鍋 徹. 研究分担者: 富岡優子・中西義昌・御前明洋. 2014–2017 年度.
- 挑戦的萌芽研究 宿主によって形を変える寄生虫は存在するか?. 研究代表者: 下村通誉. 2015–2017 年度.
- 基盤研究 (C) 日本産魚類化石による魚類分岐年代解析と魚類化石データベース構築に関する研究. 研究代表者: 藪本美孝. 2014–2017 年度.
- 基盤研究 (C) 被災館と海外の館を繋ぐ携帯情報端末を使用した参加型成長連携ミュージアムの支援. 研究分担者: 藪本美孝 (研究代表者: 伏見清香). 2016–2018 年度.
- 新学術領域研究 (研究領域提案型) スロ―地震の地質学的描像と摩擦・水理特性の解明. 研究分担者: 森 康 (研究代表者: 氏家恒太郎). 2016–2020 年度.

- 基盤研究 (A) 本邦初産超高压クロミタイトとマイクロダイヤモンド. 研究分担者: 森 康 (研究代表者: 西山忠男). 2016–2019 年度.
- 基盤研究 (B) 沈み込むスラブからマントルウェッジへの水流体の化学組成の変化. 研究分担者: 森 康 (研究代表者: 川本竜彦). 2016–2018 年度.
- 基盤研究 (C) ヒスイ輝石岩に包有されたスラブ起源流体の塩濃度. 研究分担者: 森 康 (研究代表者: 重野未来). 2015–2019 年度.
- 基盤研究 (C) 新たな変成反応進行過程の提案と反応継続時間の推定. 研究分担者: 森 康 (研究代表者: 宮崎一博). 2016–2019 年度.
- 基盤研究 (C) 脊椎動物における嘴の機能と進化. 研究分担者: 大橋智之 (研究代表者: 田上 響). 2015–2017 年度.
- 若手研究 (B) 昆虫の陸上進出に伴う形態進化パターンの解明. 研究代表者: 藁島悠介. 2017–2019 年度.

【その他の補助金】

- 船の科学館「海の学び ミュージアムサポート」プログラム2「海の博物館活動サポート」支援. シーラカンスから海を学ぶ. 藪本美孝. 2017 年度.
- 藤原ナチュラルヒストリー振興財団第 25 回学術研究助成 [動物]. 北部九州における土壌性甲虫の幼虫期の網羅的解明. 藁島悠介. 2017 年度.
- 藤原ナチュラルヒストリー振興財団第 25 回学術研究助成 [動物]. コノハガエル科両生類にみられる特異な形態形質の起源を探る. 江頭幸士郎. 2017 年度.

2 1. 学芸員研究業績（歴史）

（1）論文・著書など

- 黒木英憲・恵良秀則・松井和幸（2017）「黒鉛化木炭という言葉」『たたら研究』第56号、たたら研究会、pp. 42-48
- 日比野利信（2017）「旧藩史観」再考『九州歴史科学』第45号、九州歴史科学研究会、pp. 116-127
- 原田智也編（2018）『花尾城跡』北九州市教育委員会
- 守友 隆（2017）「日本 近世 一二 交通」『史学雑誌 2016年の歴史学界—回顧と展望—』第126編第5号、公益財団法人史学会、pp. 127-128
- 守友 隆（2017）「異船追却志草稿」諸本の紹介—享保の「唐船」打ち払いに関する福岡藩士の記録—『北九州市立自然史・歴史博物館研究報告』B類歴史第14号、pp. 74（1）-38（37）
- 守友 隆（2017）「対州御供御仕立」の紹介—文化度朝鮮通信使に関する小倉藩の見積書—（『北九州市立自然史・歴史博物館研究報告』B類歴史第14号、pp. 36（39）-1（74）
- 守友 隆ほか11名（2018）筑前町史編さん事務局編『筑前町史 資料編 近世・近代』、筑前町、pp. 1_2, 13_66
- 中西義昌（2017）「織豊取立大名の転封と「織豊化」村田修三監修・城郭談話会編『織豊系城郭とは何か その成果と課題』、pp. 51-54
- 中西義昌（2017）「織豊期畿内の城郭遺跡を捉え直す-千石堀城の調査事例から-」村田修三監修・城郭談話会編『織豊系城郭とは何か その成果と課題』、pp. 104-108
- 中西義昌（2017）「大名系城郭」概念と織豊系城郭」村田修三監修・城郭談話会編『織豊系城郭とは何か その成果と課題』、pp. 236-240

（2）学会等講演

- 松井和幸「邪馬台国時代の鉄文化」1～3回、朝日カルチャーセンター北九州教室、2017年10月23日・11月27日・12月25日
- 松井和幸「倭の鉄文化」『第11回韓国鉄文化研究会・翰林考古学研究所学術セミナー』、韓国国立中央博物館、2017年10月13日
- 松井和幸「阿蘇リモナイトから弥生製鉄を考える」平成29年度九州考古学会総会研究発表、西南学院大学コミュニティセンター、2017年11月26日
- 松井和幸「ひろしま考古学講座VI 邪馬台国時代の考古学 第1回邪馬台国時代の鉄—小丸遺跡（三原市）の発掘調査から—」（公財）広島県教育事業団埋蔵文化財調査室主催、広島県立体育館、2017年12月3日
- 日比野利信「旧藩史観」再考九州歴史科学研究会、明治維新150周年記念シンポジウム、2017年6月10日
- 守友 隆「最後の戦国武将 初代明石城主 小笠原忠真」兵庫県・（公財）兵庫県園芸・公園協会主催、（一社）明石観光協会共催『明石城 城と緑の景観づくり講演会』、あかし市民広場、2018年1月30日
- 中西義昌・御前明洋・真鍋 徹「山地の歴史的景観を復元する～北九州市帆柱連山の山城遺跡から～」『ELR2017名古屋 合同大会』、名古屋大学、2017年9月24日
- 真鍋 徹・御前明洋・中西義昌・富岡優子・須藤明美・伊東啓太郎「景観の変遷を市民に伝える方法」日本緑化工学会・日本景観生態学会・応用生態工学会3学会合同大会、名古屋大学、2017年9月24日

（3）外部資金取得状況

【日本学術振興会科学研究費助成事業科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金】

基盤研究（C）近代日本における企業家のネットワーク形成—地方財閥における人脈の総合的研究。
研究代表者：日比野利信、2016-2018年度。

基盤研究（B）服飾からみる近代日本の生成—ハイカラと上品。研究分担者：日比野利信（研究代表者：乾 淑子）、2017-2019年度。

- 基盤研究 (C) 自然・文化景観から人と自然との関わりを現出するための新たな研究手法の構築。
研究分担者：富岡優子、中西義昌（研究代表者：真鍋 徹）。2014-2017 年度。
- 若手研究 (B) 幕末における海外文化の収集活動と翻訳について。研究代表者：上野晶子。2013-2019 年度。
- 若手研究 (B) 九州を中心とする仏涅槃図の基礎的研究。研究代表者：富岡優子。2014-2019 年度。
- 若手研究 (B) 近世後期・幕末維新时期日朝間における海外事件情報流通の研究—対馬藩宗家史料を中心に。研究代表者：守友 隆。2015-2017 年度。

【その他の補助金】

出光文化福祉財団平成 28 年度調査・研究助成。棟方志功の足跡～海道シリーズの成立と北九州の民藝運動を中心に～。研究代表者：富岡優子。2017-2018 年度。

2 2 . 博物館刊行物

(1) 研究報告 A 類 自然史 第 16 号 (2018 年 3 月 31 日発行)

- Naoto Jimi, Noriko Yasuoka and Hiroshi Kajihara. Polychaetes collected from floats of oyster-farming rafts in Kure, the Seto Inland Sea, Japan, with notes on the pest species *Polydora hoplura* (Annelida: Spionidae). pp. 1-4. [自見直人・安岡法子・柁原 宏. 瀬戸内海呉市の牡蠣筏より採集された多毛類, 特に病害種である *Polydora hoplura* (環形動物門: スピオ科) について. pp. 1-4]
- Shinya Miyata and Yoshitaka Yabumoto. Osetology of the cyprinid fish, *Nipponocypris temminckii* (Temminck and Schlegel, 1846) . pp. 5-30. [宮田真也・藪本美孝. コイ科魚類カワムツ *Nipponocypris temminckii* の骨学的研究. pp. 5-30]

(2) 研究報告 B 類 歴史 第 15 号 (2018 年 3 月 31 日発行)

【研究ノート】

松井和幸「研究ノート 遺跡出土タケ・ササをめぐる諸問題」 [pp. 1-23]

【資料紹介】

守友 隆「徳川秀忠・家光「御内書」の紹介」 [pp. 27(34)-50(11)]

【論文】

永尾正剛「細川小倉藩の葡萄酒」 [pp. 51(10)-60(1)]

年 報

平成 29 年度

編集・発行 北九州市立自然史・歴史博物館

北九州市八幡東区東田 2-4-1

TEL 093-681-1011

FAX 093-661-7503

<http://www.kmnh.jp>



北九州市立 自然史・歴史博物館

いのちのたび博物館

KITAKYUSHU MUSEUM OF NATURAL HISTORY & HUMAN HISTORY